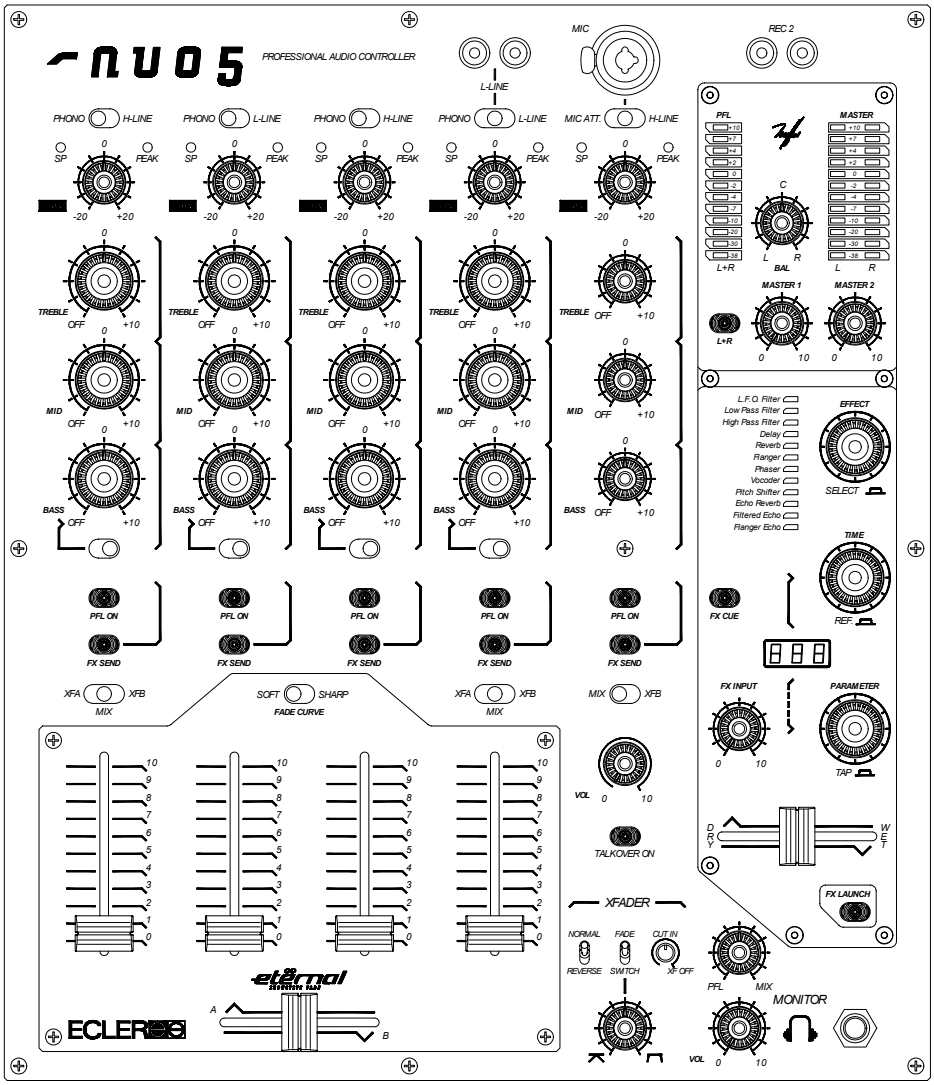
USER MANUAL

日本語取扱説明書

NUO 5

PROFESSIONAL AUDIO CONTROLLER



ECLER

AUDIO CREATIVE POWER

ユーザーマニュアル目次

1.重要な記述
　　安全に関するインストラクション 3
　　製品の保証とアフターサービス 3

2. イントロダクション 4

3.本体の設置 4
　　3.1 音声ラインの接続 5
　　3.2 オーディオ出力の接続 6
　　3.3 デジタル機器の接続 7

4. クイックスタート 8

5.NUO5 のオペレーション 10
　　5.1 スタートアップ 10
　　5.2 各種コントロール 11

6. エフェクトパフォーマンス 14

　　6.1 ミキサーエフェクトコントロール 14
　　6.2 NUO5 内蔵エフェクトの詳細 17

7. PC モード—エフェクトリモートとパラメーター 22

　　7.1 ソフトウェアとドライバーのインストール 22
　　7.2 PC モードでの操作 22

8. MIDI 機能の使い方 31

9. より楽しくお使いいただくために 31

10.機能一覧表 33

11. ファンクションダイアグラム 34

12.製品仕様 35

13.ダイヤグラム 36

　　13.1 Figures 36
　　　　13.1.1 NUO5 を主体とした外部機器接続のイメージ図 36
　　　　13.1.2 オプションラッキングシステム詳細 37
　　　　13.1.3 内部ジャンパー接続の設定（上級者・技術者用） 38

14.ブロックダイヤグラム 39

All numbers subject to variation due to production tolerances. ECLER S.A. reserves the right to make changes or improvements in manufacturing or design which may affect specifications.

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

安全に関するインストラクション

本製品を末永く、安全にご使用いただくため、電源を含むすべてのケーブルを本体に接続する前にこの日本語取扱説明書をよくお読みください。この説明書には今後使用する上でのさまざまなエッセンシャルが細やかに記述されています。もし、ご不明な点が生じた場合はご遠慮なくお求めの販売店もしくは輸入元カスタマーサポートへご連絡ください。
また、製品に不具合や不調がある場合は決してご自身で修理を試みず、お近くの販売店に本体をお持込の上ご相談ください。

本体に同梱されている電源ケーブルはアースつき 3P 仕様となっています。アースの取れる場所においては極力アースをとるようにして下さい。
本体にいかなる液体を混入させたり、また雨や高温多湿の場所を避けるようにしてください。

また、本体を長期間使用しないときは、本体の電源プラグをはじめすべての接続ケーブルを抜いてください。

CAUTION: RISK OF ELECTRIC SHOCK. DO NOT OPEN.

製品の保証とアフターサービス

この製品はスペインで生産され、ECLER がもつ厳しい製品検査を経て出荷され、また国内到着後当社の厳密な検査にも合格した上で出荷されたものです。しかしながらご使用中に万一製造上の不備による故障が発生した場合は、製品に同梱している保証書に記載された保証規定に従い保証期間に限り無償修理致します。
なお、本製品の保証期間は販売店よりお買い上げの日より換算して 1 年間です。
また、本製品は下記輸入元の正式な手続きを経て輸入されており、それ以外のいかなる者により国内に調達された製品に関してはどのような場合にあっても製品保証の対象外とさせていただきますのであらかじめご了承願います。
This warranty program is valid only in Japan.

修理に関する御相談先
▼国内輸入総代理店
株式会社サウンドファーム　技術部 カスタマーサービス
電話 086-242-5105　　FAX:086-242-5106
〒700-0976 岡山市辰巳 421-1 3F
メールでのお問い合わせは:sales@soundfarm.co.jp までお願いします。

※　製品を送付される前に必ず御連絡をお願いします。その際、修理受付番号を申し上げますので番号をお手元にお控えいただきます様お願いします。また、無償修理の場合保証期間内であることが証明された「製品保証書」が必要になります。それ以外の修理はいかなる場合においても有償となりますのでご了承ください。
※　本製品に関する保証制度は、販売店よりご購入したオリジナルユーザー（最初のユーザー）のみ有効です。保障期間内に譲渡された場合、被譲渡者には保証制度の一切の権利は継承されません。

また、製品の不具合、故障につきまして、販売店もしくは輸入元に送品する前にその症状、発生頻度などをできるだけ詳しく記載したメモを同封いただけますと迅速な修理が可能です。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

2. イントロダクション

このたびは ECLER 社プロフェッショナル DJ ミキシングコンソール”NUO5”をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。NUO5 はスペイン ECLER 社が長年の技術の蓄積をもって開発した真のプロフェッショナル DJ に向けたコンソールであり、DJ ユースとしての使用はもちろんのこと、レコーディング、各種音楽制作にも十分な力を発揮するオーバークオリティを目指してデザインされました。開発から生産までを一貫して自社で行い、また 1 つ 1 つのパーツにいたるまですべてにおいて吟味を尽くした、「道の追及」という言葉がぴったりと当てはまるすばらしい製品です。
NUO5 は専用 PC ソフトウェア”edi:lab”でリモートコントロールができるプロフェッショナルエフェクターを搭載した 5 チャンネルステレオミキサーです。また、HAK360 での登場以来圧倒的な支持を誇る”ETERNAL”磁気クロスフェーダー（非接触型）を搭載、従来のブラシ型フェーダーに比べ、約 1,600 万回(ECLER 調べ)もの高耐久性を誇ります。、

NUO5 は本体のアピアランスやフォーマットからクラブでの使用をメインターゲットに考慮されておりますが、卓越したソフトウェアや MIDI 機能、そして ECLER 独自の VCA 技術はハイクオリティオーディオツールとしてもお使いいただけます。

さあ、これから NUO5 とともに新しいミュージックライフをお楽しみください。

3. 本体の設置

NUO5 があなたの元へ到着した日。いよいよ、「ドキドキ、ワクワク」の瞬間です。
が、落ち着いてください。この説明書を一番最初に読まれていることを願います。
まず、ユーザーであるあなたが考慮しなければならないのは「これをどこに設置し」「周辺機器とのケーブルをいかに取り回すか」ということです。通常、こういった DJ ミキサーと呼ばれるものはテーブルトップを前提にデザインされており、両脇にターンテーブル（レコードプレーヤー）もしくは CD といった再生機器を置き、NUO5 本体はその真ん中に設置します。NUO5 の寸法は幅 32Cm、奥行き 37Cm です。
　ラックマウントにした状態で使いたい場合は、オプションのラックマウントキット（別売）をお使いになることをお勧めします。詳しくは巻末の資料(Fig.1)をご覧ください。

マイクロフォン、およびターンテーブル(PHONO)は非常に高いゲイン（利得―音声信号の増幅）を必要とし、周辺で電気的ノイズが発生するとそのノイズがケーブルを介して混入し、ノイズごと増幅されてしまいます。調光装置やエンジン、大型トランスなど、本体からノイズの発生する機材およびケーブル（こういった機械は本体そのものからノイズが出ているものです）から離した状態でお使いください。また、本体自体は強い電気シールドを施しています。お使いの際は、本体の底部メタリックカバーを開けたままの状態で使わないでください。

NUO5 の電源は通称スイッチングシステムといわれる電源を使用しているため、特に大きな発熱はありません。本体をクーリングする必要はありませんが、使用環境において極端に高温多湿の場所、もしくは埃の多い場所でのご使用はお控えください。
この電源システムは ECLER がワールドワイドの使用を前提にして設計したユニバーサルパワーサプライを使用しており、90～264VAC、電源周波数 47～63Hz の間であれば正常に動作します。外国での使用は、その国にあった AC コンセントのアタッチメントを購入するだけで使用することができ、ステップアップトランス等は必要ありません。
今一度、電源ケーブルが信号ケーブルと同じ位置でにあったりクロスしたりしていないかをご確認ください。このような状態ですと電源ノイズを発生しやすくなります。

なお、本体には過電流用のヒューズ(T500mA)が搭載されています。本体の電源コード差込口のすぐ上にヒューズホルダーがあり、もしもこのヒューズが切れた場合も簡単に交換が可能です。

＜注意＞規定容量外のヒューズを挿入することは絶対におやめください。また、交換したヒューズがすぐに切れるなどの症状がある場合は別の不良が考えられます。お近くの販売店もしくは輸入元カスタマサービスまでご相談ください。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

3.1 音声ラインの接続

Phono 1	ターンテーブル 1
H-Line 1	CD プレーヤー 1
Phono 2	ターンテーブル 2
L-Line 2	シーケンサー出力など、ローインピーダンス出力の音響機材
Phono 3	ターンテーブル 3
H-Line 3	CD プレーヤー 2
Phono 4	ターンテーブル 4
L-Line Top 4	MP3/ミニディスクプレーヤー
L-Line Rear 4	コンピューター等の音声ライン出力
Mic Att. 5	高感度マイクロフォン（コンデンサーマイクなど）
Mic 5	通常のマイクロフォン
H-Line 5	DAT プレーヤーなど

○ Phono 入力

Phono 入力(42)に接続されるターンテーブル（レコードプレーヤー）は、「ムービングマグネット方式」（通称 MM 方式）によるものであり、その出力が-60Dbv から-20dBV(1～100 mV)の間にあるものをご使用ください。通常市販されている DJ 用ターンテーブルのほとんどがこの規格に適合します。NUO5 は PHONO 入力に対して十分なヘッドルームを持っているため、通常の入力感度は.-40dBV(10mV)となっています。

○ Line（ライン）入力

接続の前にぜひ知っていただきたいこと、それは通常 CD から出力される基準音声レベルはシーケンサーやサンプラーなどの電子楽器等の出力より高いことです。NUO5 ではこれらの出力のレベルを一定に保てるよう、それぞれに専用の入力端子を設けました。H-LINE(43)(基準入力 OdBV/1V)は主に CD や DAT、MP3、DVD プレーヤー等の出力を接続します。また、L-LINE(42)(-10dBV / 316mV)は、カセットデッキ、チューナー、サンプラーやシーケンサーなどを接続します。信号出力レベルに関してご不明な点がある場合、その機器の説明書に書かれている製品仕様をご確認ください。

○ マイクロフォン入力

マイクロフォン入力（40）は、基準入力レベルが-50dBV (3.16 mV)であり、3P フォーン/XLR 入力を兼ねた「コンボ」端子を装備しています。 通常の入力感度は-50dB(3.16mV)ですが、端子下側にあるポジションを”ATT”の位置にすると入力感度が 20dB 下がるため、-30dBV(31.6mV)まで幅広いマイク入力を受け付けることが可能です。また、端子はバランス接続になっているので、下記のような接続が必要になります。

ホット／正相信号	>	Pin 2 Tip
コールド／反転移位相信号	>	Pin 3 Ring
グランド	>	Pin 1 Sleeve

NUO5 に接続されるマイクロフォンはインピーダンスが常に (200 to 600Ω)の、いわゆる「ローインピーダンス」型のものをご使用ください。また、アンバランス接続を行う場合はピン 1とピン 3 はコネクター部分でショートさせておく必要があります。
NUO5 はコンデンサーマイクなど、外部電源を必要とするマイクのためにファンタム電源出力が装備されています。通常、工場出荷状態ではこのファンタム電源が ON の状態になっていますが、内部ジャンパーの設定によってこの機能を OFF にすることが可能です。（詳しくは巻末のダイアグラムをご覧ください）

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

3.2 オーディオ出力の接続

Out 1	メインパワーアンプ用出力
Out 2	ブース／ルーム2パワーアンプ用出力
Recording（トップ）	レコーディング機器用出力1
Recording（リア）	レコーディング機器用出力2
External Loop (Send and Return)	外部エフェクター接続用入出力（センド＆リターン）
Headphones	ヘッドフォン出力

- マスター出力（Master Output） 1:

この出力端子は XLR バランスとなっており、主に業務用パワーアンプや PA ラインへの送りに対する出力として用いられます。出力レベルの工場出荷時における基準値は 0dBV (1V)ですが、内部基盤の簡単なジャンパー変更で+6dBV (2V)にすることが可能です。OUT 1 出力は MASTER 1 (35)ボリュームノブで調節することができます。

MASTER 1 ボリュームノブの隣に R+L button (34)があります。これは右チャンネルと左チャンネルの出力を取りまとめ、モノラル出力にするもので、OUT1および OUT2の両方の出力に影響します。たとえばプレイセッションをしているときに何らかの機材の不調や音源（ソース）の関係で片側の信号が NUO5 に入力されなくなった場合などに大変便利なソリューションです。（たとえばクラブプレイ時におけるターンテーブルの針磨耗などがこれに当たります）

- マスター出力（Master Output） 2:

標準的な使い方として DJ ブースへの送りやステレオへの出力を行うといった場合が考えられます。端子である”stereo OUT 2” (50)は RCA ジャック端子を使用したアンバランス接続です。出力レベルの工場出荷時における基準値は 0dBV (1V)ですが、内部基盤の簡単なジャンパー変更で+6dBV (2V)にすることが可能です。OUT 2出力は MASTER 2 (36)ボリュームノブで調節することができます。

- レコーディング出力（Recording Outputs）:

トップ／リア各所に配置されたレコーディング出力は RCA ピンのアンバランス出力です。REC1 端子(47)は本体裏側の接続部にあり、REC2 端子(39)は本体コントロール部にあります。これら 2 つの REC 端子はパラレル接続になっておりますが、2つのレコーディング機器を同時に使用することが可能です。REC 出力の出力基準レベルは 0dBV(1V)です。

ー エクスターナルループ端子(External loop):

エクスターナルループとは外部のエフェクターやサンプラー、シーケンサーなどを NUO5 に接続し、外部ループによる多彩なプレイを実現する端子です。外部出力端子=EXTERNAL FX output SEND (45)と外部入力端子=input RTN (46) の 2 つがあり、外部機器の入出力をそれぞれ接続します。また、このエクスターナルループ出力は本体各チャンネルの”FX SEND”ボタンが押されたときに行われます。
基準レベルは入出力ともに 0dBV(1V)です。

- ヘッドフォン出力（Headphones）:

より豊かでパフォーマンス度の高い出力を得るために、ヘッドフォンはハイインピーダンスタイプ (200-600Ω)のものをお使いいただくことを強くお勧めします。ヘッドフォンの端子を PHONES outputs (21)に接続し、ヘッドフォン出力ノブで音量を調節します。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

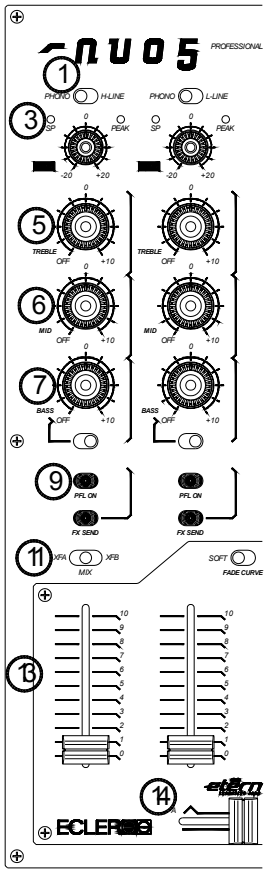
- USB ポート:

NUO5 の裏側に、USB コネクターB タイプ)があります。この USB コネクターは本体同梱の PC ソフトウェア”edi:lab”を接続するために用いられます。(“edi:lab”ソフトウェアに関する詳しい説明は第 7 章「PC モード—エフェクトとパラメータ調整のリモート」にて説明してあります)

- MIDI 出力:

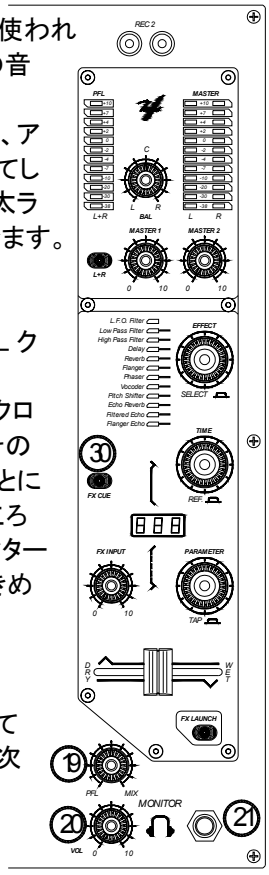
MIDI 出力端子(55)は、MIDI プロトコルを使用した電子機器を同時に運用する場合に非常に便利です。MIDI 規格は PC と各種電子楽器の間に行き来する共通のプロトコルです。MIDI の使い方に関する詳しい説明は第 8 章「MIDI の使い方」で詳述してあります。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。



NUO5 を含めたすべての機材の設置と接続に関しては前章をご覧ください。
この章では NUO5 の H－LINE 入力とヘッドフォンを接続した状態のみで行う“クイックスタート”について解説します。複雑な接続の前に、練習も兼ねてぜひお試しください。

1. チャンネルコントロールをセットします。チャンネル 1 のゲイン（GAIN）、高音(TREBLE)、中音域(MID)、低音域(BASS)の各センターポジションにします。BASS OFF スイッチが働いているようであれば、レバーを起こして BASS ON の状態にします。チャンネルフェーダーを一番下まで下げ、アサインをスイッチを使用して XFA/MID/XFB の中から XFA のポジションにします。（ここで H-LINE1 に接続された機器はクロスフェーダーの A サイド(左側)にポジショニングされます）
2. モニターボリウム(20)を左側いっぱいにまわしてミニマムの状態にし、MONITOR PFL/MIX(19)を MIX の位置にします。
3. チャンネル1(H-LINE)に接続された CD プレーヤーのスイッチを ON にします。
4. ヘッドフォン出力コネクター(21)にヘッドフォンを接続します。
5. ここで初めて NUO5 の電源コードを本体とコンセントの両方に挿し、電源スイッチを入れます。
※CD プレーヤーのほうが電源を入れる順番としては先になります。
6. チャンネル 1 の SP(シグナルプレゼンス=信号検出)の LED(3)が音楽に合わせて光っているかどうかを確認します。もし、ここで LED が光らない場合は CD プレーヤーと NUO5 との接続に問題があるか、もしくは CD プレーヤーそのものの音源などに問題がありますのでチェックしてください。
7. チャンネル 1 の PFL ボタン(9)を押して、NUO5 の VU メーターが大体 0Db くらいを指すようにGAIN(ゲイン)を調節します。VU メーターのピーク LED が赤色をずっと指示している場合は NUO5 への入力が高すぎることを意味します(+10dB 以上)。このような場合はただちに GAIN つまみを左に回し、入力感度を小さくします。
8. チャンネルフェーダー(13)を大体 70%くらいの位置にして、クロスフェーダー(14)を<<A>>のポジション(左側)に動かします。
9. 次は、ECLER 独自の EQ セクションを楽しみましょう。(5-6-7)もともと EQ【イコライザ】は、ハウリング除去や出音をなるべくナチュラルになるように音を加工するなど、いわゆる温情補正として使われますが DJ ミキサーの場合、プレイヤーの想像力に任せてポジティブに使い、時にはまったく別の音になるくらいの加工を施します。
ECLER の EQ セクションはブースト/カット周波数を人間の聴感上もっとも敏感な周波数に設定し、アグレッシブな EQ プレイが可能であるほか、ノブを左いっぱいに回せばその周波数が完全に消えてしまう”KILL”エフェクトとしても使用することが可能です。そして、NUO5 に搭載された EQ ノブは極太ラバーノブ採用で、暗がりの中でのプレイでも十分に自分のフィーリングを EQ に伝えることができます。部屋の電気を消してお楽しみ下さい…
10. ETERNAL クロスフェーダー(14)のアジャストメント
NUO5 に接続された 5 チャンネルの入力は、すべて XFA/MIX/XFB セレクターによって ETERNAL クロスフェーダーの左側(XFA)、右側(XFB)、そしてバイパス(MIX)に分けられます。
ETERNAL クロスフェーダーはハードスクラッチを前提として設計されているヘビーユーザー向けクロスフェーダーで、非常にスムーズな動きとフェーダー内部が無接点のため驚くほどにフェーダーそのものが高寿命であることが特長です。ここでは、フェーダーの「カットイン」のポジションを決めることにします。NUO5 はフェーダーの特性やカットインポジション(クロスフェーダーの端から何 mm のところで音源を受け付け始めるかのポイント)を CUT-IN ノブとクロスフェードセレクター、リバースセレクター（クロスフェーダーの特性を逆転させる）、そしてシェイプコントロール（カーブスロープの調整）できめ細かに調節することができます。
プレイの状況や音源のジャンルに応じて自分自身のセッティングをお楽しみください。



11. 最後に NUO5 のスペシャル機能でもあるエフェクトを使って見ましょう。ここではサンプルとして L.F.O エフェクトを使用することにします。まず、チャンネル 1 にある FX SEND ボタンを押します。次に本体右側のエフェクトセクションのエフェクトセレクターコントロールロータリーエンコーダーを回し、”L.F.O”のポジションにあわせ、ノブを押します。次に FX LAUNCH ボタンを押して下側の DRY/WET クロスフェーダーでエフェクトのかかり具合を調節します。DRY が原音で WET がエ

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

フェクトシグナルです。3 つのエンコーダーのうち TIME エンコーダーはオシレーションの長さを調節することができ、PARAMETER エンコーダーは 100Hz (0%)から 12Hz (100%)の間で増幅させるオシレーションの周波数を調節することができます。これらの情報は、FX セクションの中の LED セグメントディスプレイに表示されます。

もっと詳しい機能などに関しては、残りのセクションで詳述することにします。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

5.1 スタートアップ

本体背面にある POWER(54)スイッチを ON にすると NUO5 本体の電源が入り、本体の”ON”LED が点灯します。
＜注意＞
NUO5 の電源投入時に発生するノイズは他の DJ ミキサーに比べ非常に小さく、ほとんどノイズのないスムーズなスターティングが可能です。しかし、音響機器に関するいかなる事故も防ぐため、ぜひ以下の「電源投入手順」をお守りください。

【電源投入の手順】
1. ターンテーブル、CD などの音源装置
2. ミキサー（NUO5 本体を含む）、および EQ などのアウトボード
3. パワーアンプなどの出力装置とレコーディング機器
【電源 OFF の手順】
上記1～3の逆の手順を行ってください。この手順を守らないと、スピーカーに損傷を与える危険性があります。

5.2 各種コントロール

5.2.1 インプットセレクター【Input selector】

各入力チャンネルにはセレクタースイッチ(1)が装備されており、PHONO 入力や CD 入力などを選択することができます。

5.2.2 チャンネルゲイン【GAIN】

NUO5 のすべてのチャンネルには無段階で調整が可能なゲインコントロールノブ(1)が装備されています。このゲインコントロールは主にチャンネル間の入力レベルの違いをおおよその幅で均一にするもので、このゲインコントロールをしっかり行っていれば、フェーダーを上げたときにチャンネルにかかわらず常に同じレベルでの出力が得られます。
ゲインのコントロールの仕方はシグナルプレゼンスインジケーター(3)、ピーク LED(2)、VU メーター、ヘッドフォンでの聴感をリファレンスとして調節します。おおよそのレベルとして、①VU メーターで OdB 前後を指すこと、②クリッピングインジケーターが点灯しないレベルが最も望ましいといわれています。

5.2.3 イコライゼーション

NUO5 にはチャンネルごとに3バンドの EQ が装備されており、高音(5)および低音(7)は+10/−30dB のブースト/カットが可能で中域(6)は+10/−25dB のブースト/カットが可能です。各帯域のイコライザーを左いっぱいに回すとその大域のとは消失します。また、低音出力に関してはベースオフスイッチ”BASS OFF”が搭載されており、EQ ノブの位置にかかわらず低音信号をカットアウトすることが可能です。

ATTENTION: ブーストをする際には、低音に十分注意してください。低音をブースとしたときにかかるスピーカーの負荷がキャパシティをオーバーして破損する原因となります。

5.2.4 モニタリングシステム

NUO5 に搭載されたモニタリングシステム PFL/FX キュー(プリフェーダーでの検聴とエフェクトモニタリング)および MIX（プログラム出力モニター）モードを装備したフレキシブルでイージーユースなシステムで、ヘッドフォンと VU メーターを使用して行います。

それぞれのチャンネルと同様エフェクトプロセッシング信号に関しても PFL (9) または（もしくは）FX CUE (30)ボタンを使って視覚的に、またエフェクト出力段のプリ部分で検聴することが可能です。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

ヘッドフォンでの検聴に関しては、PFL/MIX ロータリーノブ (19) をT買うことによって、PFL を押したすべてのチャンネルもしくは（または）FX CUE を MIX 信号と比較して行うことが可能で巣。VOLRボリューム(20)は、ヘッドフォンへの出力をコントロールします。.

NUO5 は、L/R のプログラム信号と PFL 段での R+L シグナルを同時にメータリングすることができます。

5.2.5 エフェクトへのチャンネル送り

FX SEND（エフェクト送り）ボタン(10) を押し、ボタンの LED が青色に転倒している状態であれば、入力されたチャンネル信号は内蔵エフェクターと同時に外部エフェクター送り（EXTERNAL FX loop, 45/46)に送られます、.

内蔵内蔵エフェクターおよび外部エフェクターのルーピングに関しての詳細は、第6章「エフェクトパフォーマンス」の項をお読みください。

5.2.6 チャンネルフェーダー

NUO5 に搭載された 60mm ECLER フェーダー (13) は、非常にスムーズな動きとすばやいカットインタイム、そして 400 万回を越す耐スクラッチ性能を誇る超高性能フェーダーで、もうひとつの ECLER の独自技術でもある VCA(Voltage Controlled Amplifier)システムとセットになって使われます。

VCA 回路はプロレコーディングおよび放送用ミキサーを始め、各種業務用ミキサーの中でも高級とされるミキサーにしか存在しない回路で、入力した信号をそのままコントロールするのではなく、内部電圧の変化に応じて別の領域からリモートコントロールする形で音の大小を調節していく回路です。これにより、通常アナログミキサーにとって避けて通ることのできない「音質劣化」の問題を根本から解決し、自由自在なサウンドメイキングに貢献します。
もうひとつの特筆は、数ある VCA 回路の中でも ECLER のミキサーで使われているそれは非常に緻密であり、またパーツ構成がぜいたくであるということ。放送局グレードの回路が DJ ミキサーにそのまま入っているとお考えいただくとよいでしょう。
　さて、VCA 回路 DJ ミキサーで使用すると「カーブアジャストメント」 (12)などのように、フェーダーカーブそのものを自由に変化させることができたり（NUO5 のカーブアジャストメントは”SOFT”モードと“HARD”モードの2種類が存在）します。 通常、これらのいわゆる多チャンネルミキサーJには存在しなかった機能で、これによりクラブミキシングでは必須の「カット」テクニックをラージ卓で実現します。

チャンネル 1/4/5 に関しては、NUO5 のクロスフェーダーへのアサインをトグルスイッチ(11/26)で定義することが可能で巣。例えば“XFA” はクロスフェーダーの A 側（左側）にアクセスし、“MIX”の状態であればクロスフェーダーに左右されずボリュームコントロールはチャンネルフェーダーで行います。

5.2.7 エターナルクロスフェーダー

ECLER の「エターナルクロスフェーダー」(14)は磁気コントロール技術をベースに開発された無接点フェーダーです。非常に軽いアルミニウム膜 is an inductive fade technology based on a magnetic control. An extremely light aluminium screen (0,5 gr.) cuts the flux lines of a 2 つのコイル間に発生する磁界を ここで発生された磁気は電圧に変換され、NUO5 の内部 VCA 回路に電圧情報として送られていき、最終的に入力した音声信号のレベルをコントロールしていきます。
エターナルクロスフェーダーから得られる「コンタクトレス」（無接点）技術により、ユーザーは非常にスムーズなフェーダータッチと正確なフェーダーの位置情報で「失敗のない」クロスフェードプレイを可能にします。

エターナルクロスフェーダーの開発コンセプトは外界のスモーク、湿気、温度など劣悪な環境でも問題なく動くことを前提としているため、それまで他社で主流のフェーダー技術として活用されていた「光フェーダー」技術を採用しなかったことに特筆されます。

また、エターナルクロスフェーダーは、「チューニング」と呼ばれる新機能を搭載しており、クロスフェーダーの特性をより正確に反映させるためのアジャスト機能を装備しています。

- CROSSMODE（クロスモード）セレクター(16)：プレイヤーによって違う「スクラッチスタイル」を加味し、NUO5 にはフェードモードとスイッチモード、2 つのモードが用意されています。フェードモードではプログレッシブな“ロールオフ”カーブを作る一方

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

でスイッチモードではよりすばやいスクラッチを実現するために「スクエア型」の波形特性が得られる仕組みになっています。両方のカーブ特性はシェイプ“SHAPE”調整用ボリュームでより細やかな特性を調節することが可能です。

– シェイプ“SHAPE”調整ボリューム (17): クロスフェーダーのスロープ（スロープが急峻になるにしたがってフェードインに至るフェーダー距離が短くなります）を調整するボリュームです。

– リバース”REVERSE“スイッチ (15): 別名「ハムスタースイッチ（もしくはハムスターケージ）」と呼ばれるスイッチで、クロスフェーダーの方向特性を逆転させる機能をアクティブにするスイッチです。プレイのスタイルに応じ、同じ方向へのフェーダーの動きに対して「音量増加」「音量減少」のどちらも楽しむことができます。

– 「CUT–IN–TIME」微調整機構 (18): この小さなボリュームは、NUO5 に搭載された ETERNAL クロスフェーダーの「カットインタイム」を完璧にチューンアップするための特別な機構です。「カットインタイム」とは、クロスフェーダーを端に追いやったとき、ぎりぎりのところで音が出るか出ないかの瀬戸際を決める場所のことを指し、通常の DJ ミキサーに比べてはるかに細やかな微調整を行うことができます。特にスクラッチ系プレイでは1mm 以下のアジャストが必要な場合があり、この機構を使うことによって更なる「追い込み」が可能になります。
もっとも、一番簡単な「カットインタイム」の見つけ方をご紹介します。
まず、XFA 側にルーティングされた音源を出したままの状態でクロスフェーダーを XFB 側（つまり右側）の一番端の位置にします。そして、「CUT–IN–TIME」ボリュームをゆっくりと時計方向に回します。あるところでクロスフェーダーが利かなくなり、XFA 側の音が出だします。ここで、少しだけボリュームを戻すと音が止まります。微妙な戻しなので気をつけてください。
実は、このポジションこそが本当の「カットインタイム」で、クロスフェーダーの端からその差わずか 0.5mm 以下という驚異的なカットポジションであり、通常ここまでの調整が施せるミキサーはありません。あとはあなたのプレイに応じて自分にぴったりの「カットインポジション」を確立してください。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

ETERNAL 無接点クロスフェーダーは、究極のスクラッチテクニックを実現するために開発され、抜群にスムーズかつすばやい動きのクロスフェーダーとして仕上がっています。

また、通常のクロスフェーダーの方をお好みの方のために、NUO5 には「スタンダード VCA クロスフェーダー」が同梱されています。この現在接続されている ETERNAL クロスフェーダーからスタンダード VCA クロスフェーダーに交換する場合、以下のことに注意してください。

◎ ETERNAL クロスフェーダーと ECLER スタンダード VCA クロスフェーダーの接続コンタクトは同じですので、本体のトッププラバーをドライバーで開けるだけですぐに交換が可能です。

◎ どちらのフェーダーを使用しても、リバース機能(15)およびシェイプコントロール機能（16/17）は使用可能ですが、カットインタイム機能(18)は使用することができません。スタンダード VCA クロスフェーダーをご使用の際は「カットインタイム」ボリュームを最大位置（右にいっぱい）でご使用ください。

5.2.8 内蔵エフェクトコントロール

この項につきましては、後述する第6章「エフェクトパフォーマンス」をご参照ください。

5.2.9. トークオーバー【TALKOVER】機能

チャンネル5に接続されるマイクロフォン入力は、トークオーバー機能を装備しています。この機能はマイクロフォンがアクティブで DJ がコメントを入れている間、他のソースの音量が自動的に低くなりマイクレベルを優先するという機能です。あってネーションレベルはマイクレベルに対して約-30dB、マイク入力から1秒以上持続した入力に対してアクティブになります。また、トークオーバー機能が機能している間、チャンネル5のエフェクトセンド【FX SEND】機能は有効になりません。

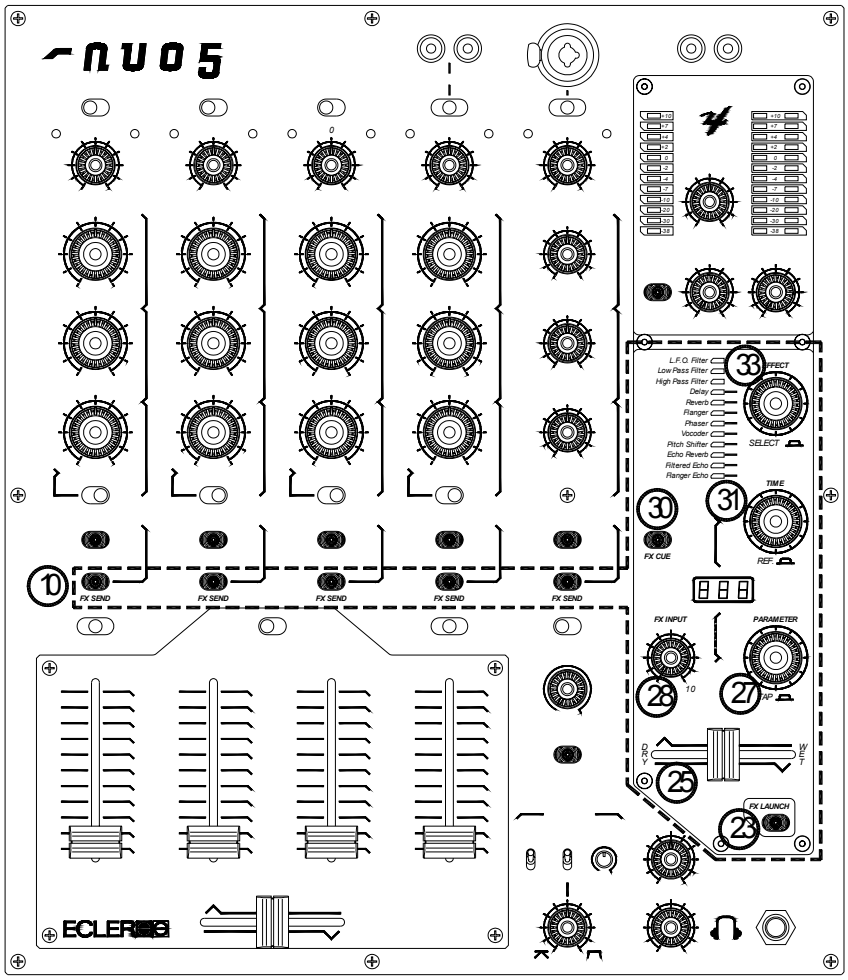
5.2.10 マスター【MASTER】レベル

NUO5 には2つのプログラム出力、MASTER 1 (35) および MASTER 2 (36)があります。OUT 1 (48/49)出力端子は MASTER1 出力ボリュームでコントロールされ、同時に VU メーター(38)で視覚的にレベルをモニターすることが可能です。一方、MASTER2 の出力は OUT2(50)端子から出力されますが、VU メーターでのモニタリングはできません。

MASTER 1 および MASTER 2 は R+L button を押すと、両方の出力がモノラル出力になります。また、 MASTER 1 のみが BAL ボリュームで左右チャンネルのバランスをコントロールすることができますが、MASTER2 はバランスをコントロールすることができません。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

6.1 エフェクトコントロール



FX SEND セレクター (10)

DJワークシステムのために特別に設計されたフレックスマルチチャンネルアサインメントシステム。このボタンを押すだけで各チャンネルの入力信号は NUO5 のエフェクトブロックおよび外部 FX 出力（ETERNAL FX LOOP）に接続されます。

初期設定ではエフェクトセンドの信号はプリフェーダーですが、FX LAUNCH ボタンが ON になっていて EFFECT セレクターがアクティブになっている場合は、エフェクトセンドの信号はポストフェーダーになります。

また、NUO5 は外部エフェクターの接続用に SEND（送り：45）and RECEIVE（受け：46)の 2 つの RCA ピンジャック入出力を備えています。内部エフェクトへの信号伝達の仕組みと FX センドボタンを押すことにより、これらの外部エフェクター出力にも同様に信号が出力されます。外部エフェクター出力は基本的にプリフェーダーですが、FX SEND（10), EFFECT（エンコーダー 33）および FX LAUNCH (23)ボタンの3つが押されているときには自動的にポストフェーダーとなります。NUO5 の内蔵エフェクトを一切使わず、外部エフェクトだけを使用したい場合は、前述の 3 つのボタンを押し、DRY-WET クロスフェーダー(25)を”DRY”の位置にして使用します。

この FX SEND（エフェクト出力）ボタンを押すことにより、MIDI START/STOP 機能も同時に使うことができます。詳しくは8.【MIDI の使い方】の項をご参照下さい。

エフェクトセレクター（ロータリー＆プッシュコントロールエンコーダー）(33)

このセレクタはロータリー＆プッシュコントロール型のエンコーダースイッチであり、このスイッチを自在に回転させてエフェクトを選択し、選択した状態でスイッチを押すと選択したエフェクトが確定します。NUO5 の内部に含まれる基本エフェクトはビートシンクロナイズドエフェクト×８、マニュアルフィルター×２、ボイスエフェクト×２の合計 12 種類です。

エフェクトを ON にすると、エフェクトセクションにある LED が点滅を始めます。ロータリースイッチでエフェクトを選択後、選択したエフェクトが NUO5 内部で使用可能になると LED の点滅は停止します。この段階でエフェクトを使用することが可能になります。実際の使用のときには、エフェクトコントロールボリュームが適切な位置にあり、また FX LAUNCH ボタン(23)が ON になっていなければなりません。

なお、L.F.O, フランジャー(Flanger)、フェイザー(Phaser)、エコーフランジャー(Echo Flanger)をエフェクトとして選択したときは常にオシレート波形は初期化された状態になります。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

DJプレイ中にエフェクトの種類を替えたい場合は、再度エンコーダーを回して目的のエフェクトの種類を選択し、エンコーダーをもう一度押します。現在選択されているエフェクトは LED が点灯している状態であり、次に選択しようとするエフェクトは LED が点滅しています。エフェクトを切り替えるとスムーズに新しいエフェクトにクロスフェードされます。

“FX CUE” セレクタープッシュボタン(30)

このボタンはエフェクト信号を CUE としてヘッドホンに出力するためのプッシュボタンです。

エフェクトの CUE 信号は DRY-WET クロスフェーダー(25)に影響します。

エフェクトプロセッサー、つまりエフェクトは FX CUE に関係なく、連続して動作しています。

エフェクトプロセッサー上の”CUE”機能を正しくお使いいただくため FX 出力信号(10)は通常プリフェーダーとなっています。CUE をとりモニターしてエフェクトパラメーターの調整を行ったら、エフェクトセレクターををアクティブの状態にしたまま、FX LAUNCH(23)ボタンを押します。エフェクトプロセッシングは自動的にプリフェーダーに変わります。

TIME タイム（ロータリー＆プッシュコントロールエンコーダー）(31)

このエンコーダーはエフェクトのビートシンクロナイゼーション（同期）をコントロールします。
ディスプレイに表示されている値は【ビート】機能で、たとえば”1.50”と表示されている時には、“1.5 ビート”(BPM の表示ではない)となります。これは、NUO5 エフェクトが基本的に完全 BPM 追従型であるためで、リアル BPM を表示せず感覚としてのビートを基準としてとらえています。

ローパスフィルター（Low Pass Filter）、ハイパスフィルター（High Pass Filter）およびピッチシフター（Pitch Shifter）は“マニュアル”系のエフェクトであるため、タイムコントロールは関係しません。ボコーダー(Vocoder)エフェクトに関しては、TIME コントロールはシンセサイズする音階として機能します。

【例】
ディレイエフェクトを使用した場合：ディスプレイに “2.00”と表示されている場合は、生成されたディレイ信号は 2 ビート分オリジナルの信号より遅れて送出されます。同様に、“1-2”は 1/2 ビートとなります。

L.F.O.フィルター、フランジャー、フェイザーなどのオシレート系エフェクトはビートパターンに同期されます。

また、TIME ボタンを押すことで、リファレンスのビートタイムをすぐに呼び出すことができます。リファレンスタイムはそれぞれのエフェクトに対して 4 つ準備されています。

Ex. ディレイエフェクトを使用した場合：
1 回目のプッシュで自動的にディレイタイム “1-4” (1/4 ビートディレイ)のリファレンスとなります。
2 回目のプッシュで自動的にディレイタイム “1-2” (1/2 ビートディレイ)のリファレンスとなります。
3 回目のプッシュで自動的にディレイタイム “3-4” (3/4 ビートディレイ)のリファレンスとなります。
4 回目のプッシュで自動的にディレイタイム “1.00” (1 ビートディレイ)のリファレンスとなります。
5 回目のプッシュで 1 回目のプッシュと同じディレイタイムに戻ります。

パラメータ PARAMETER （ロータリー＆プッシュコントロールエンコーダー）(27)

選択したエフェクトのメインパラメーターを調節します。ロータリーコントロールで各エフェクトのパラメーターを調節します。（詳しくは後述のエフェクト詳細をお読み下さい）

「パラメータ」エンコーダーをプッシュしたときの機能は “タップ機能”と呼ばれるもので、手動で NUO5 内部のビートシンクロシステムに入ることができるものです。このエンコーダーを 3 回押すと NUO5 は自動的にその 3 回のタッピングで得られた BPM を自動計算し、即座にディスプレイに表示します。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

DRY-WET エフェクトミックスクロスフェーダー (25)

DRY-WET クロスフェーダーは、生成されたエフェクトと原音とのミックスバランスを調節するフェーダーです。原音が”DRY”であるのに対し、エフェクトされた信号は”WET”と表現されます。

FX（エフェクト）入力レベルコントロール(28)

このボリュームは各チャンネルの”FX SEND“ボタンが押されたエフェクト出力に対し、内蔵エフェクター段に送る信号レベルを調節します。

このボリュームを絞りきるとエフェクター段に信号がパスされなくなるので DRY-WET フェーダーを使用しないもう1つのスタイルとして使用できます。

活用法その 1： フィルタードディレイを使用したとします。（TIME を”1-2”=1/2 ビートディレイに設定）ここで FX 入力レベルコントロールをダイナミックに大きくしたり小さくしたりすると、エフェクト生成とのミックスに波ができて違ったスタイルのダブリングを楽しむことができます）

活用法その2： フィードバックをたっぷりかけたディレイを使用するときに、FX 入力レベルコントロールを使用すると、原音は消えてなくなり、フィードバックされたディレイだけが PGM 上に残ります。（もちろん、このときもとのチャンネルフェーダーはカットされている必要があります）

FX LAUNCH プッシュボタン (23)

FX LAUNCH ボタンを押すことにより、DRY-WET クロスフェーダー後のエフェクト信号を直接プログラム（PGM）出力に送ります。

FX LAUNCH ボタンが OFF の状態にあるときは、エフェクトプロセッサーはバイパスされ、各チャンネルのエフェクトセンドは CUE モニタリングで調節のためプリフェーダーとなります。これで、PGM 出力に送られる現在のサウンドとは別にエフェクトのコントロールをアジャストすることが可能です。

FX LAUNCH ボタンが ON の状態にあるときは、エフェクトミックスはメイン出力（PGM 出力）にルーティングされ、各チャンネルのエフェクトセンドはポストフェーダーとして出力されます。つまり、このボタンを押すことによってそれまでプリフェーダーであったエフェクトセンド信号はポストフェーダーに切り替わり、ON になっている間そのチャンネルのレベルフェーダーにエフェクトレベルが左右されるという状態になります。

マルチチャンネルプロセッシングを処理する（各チャンネルの信号が違ったレベルで同時にエフェクト回路に送られる）ため、エフェクトプロセッサー出力は VCA(Voltage Controlled Amplifier)と呼ばれる回路を利用して音声信号が送られます。これは、もしエフェクトセンドの状態にあるチャンネルのフェーダーが上がっているときは、エフェクトプロセッサーの出力はそのフェーダーの上がり具合に応じてマスター出力(PGM)に送られます。

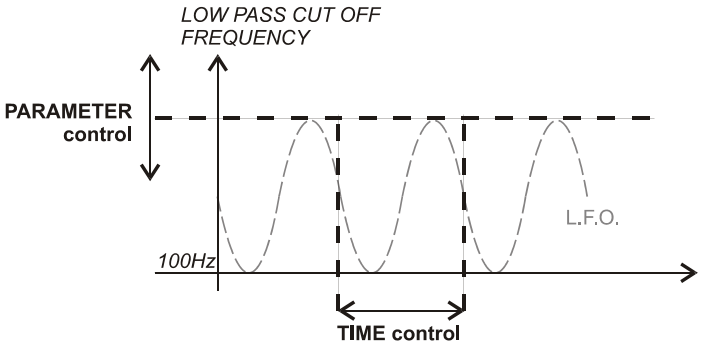
この VCA システムは、たとえば信号を入力していないチャンネルをもって「エフェクト出力（WET）フェーダー」としても活用することが可能です。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

L.F.O Filter【L.F.O フィルター】

ローパスフィルターを応用し、「ビートに応じて」サウンドにうねりをつけるようなエフェクトです。

PARAMETER コントロールノブを右にゆっくり回すと、（from “000” to “100”）カットオフ周波数の幅が大きくなり、つまり「サウンドウェーブ」が大きくなり、より大胆な音のうねりを体感することができます。



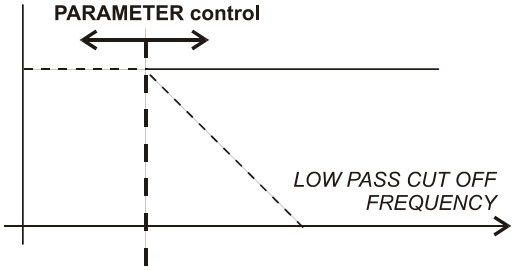
	TIME	PARAMETER
L.F.O フィルター	**オシレーションサイクルの長さ** 0.5～8 ビートパターン*の間で調整	**オシレーションサイクルの増幅** オシレーターによるカットオフ周波数を 100Hz(0%)～12KHz(100%)の間で調整

＊1 ビートパターン＝4ビート

Low Pass Filter【ローパスフィルター】

設定した周波数より高い周波数帯域にフィルターをかけ、減衰させるエフェクターです。このエフェクトを使用する際は、DRY-WET フェーダー(25)を MIX の位置にしてお使いください。

ここで調節する2つのパラメーターはフィルターをかける際の「カットオフ周波数」、そしてフィルターがかかっていく「モーフィングタイム」（徐々にフィルターをかけたり急激にフィルターをかけたりすることが自由に可能）です。たとえば PARAMETER の値を 100 に指定すると、FX LAUNCH ボタンを押した後フィルターがかかる周波数がゆっくりと動き、だんだん高域周波数成分がなくなっていきます。



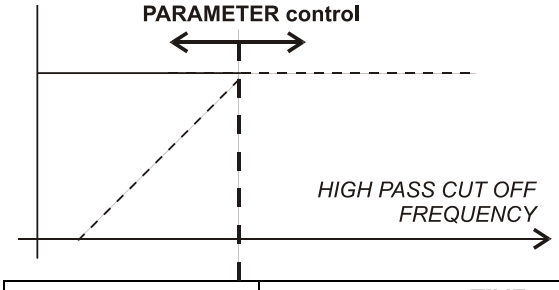
	TIME	PARAMETER
ローパスフィルター	――― （マニュアル）	**ローパスフィルターカットオフ** オシレーターによるカットオフ周波数を 100Hz(0%)～12KHz(100%)の間で調整

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

High Pass Filter【ハイパスフィルター】

ローパスフィルターの逆で、設定した周波数よりも高い周波数帯域を通します。つまり、設定した周波数よりも低音部分がカットされるエフェクトです。このエフェクトも効果として使用するためには常に”100%WET”の状態で使用する必要があるので、DRY-WET フェーダーを”WET”の状態にしておく必要があります。

使用するパラメーターは1つ（TIME は使用しない）で、カットオフ周波数のみを設定します。ここで設定された周波数（パーセント表示）を境にエフェクト効果が分かれます。パーセント表示が高ければその分高い周波数であることを意味します。

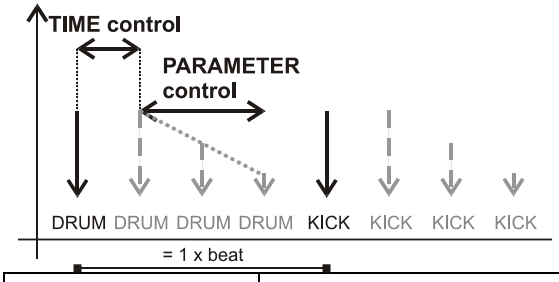


	TIME	PARAMETER
ハイパスフィルター	―― （マニュアル）	**ハイパスフィルターカットオフ** カットオフ周波数：100Hz(0%)～12KHz(100%)

Delay【ディレイ】

ディレイとは単に「遅らせる＝遅延」という意味であり、NUO5 エフェクトに関して述べると「エフェクトに入力した音がビートに対して遅れて出力される」という意味になります。また、フィードバックとは得られた「遅れている信号」をもう一度エフェクト壇に戻すことを指します。フィードバックを多く取ると遅延した信号がどんどん重なり合うため、エコーのような効果が得られます。通常「ダブリング」と呼ばれている表現は、このディレイがベースになっていることを覚えておいてください。

NUO5 エフェクターはビートに完全追従しているため、細かな BPM の設定は必要とせず、単に「何ビート遅らせるか」だけを TIME コントロールノブで調節し、PARAMETER ではフィードバック値を調節します。TIME 表示の”1-2”は、1/2 ビート分といった表示になります。



	TIME	PARAMETER
ディレイ	**ディレイタイム** 1/4～4 ビートカウント	**フィードバック（%）**

Reverb【リバーブ】

お風呂の中やコンサートホールなどにいるときなどに得られる音響効果です。原理は空間のあらゆる物に音が複雑に反射して得られる効果で、一般的に空間が大きければ大きいほど反響時間が長くなります。TIME コントロールノブではいわゆる「ルームサイズ」（＝空間の大きさ）、PARAMETER ノブでは「ディケイタイム」（リバーブ音が減衰して消失するまでの時間）を調節します。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

	TIME	PARAMETER
リバーブ	**空間環境のイメージ値** 「スモールルーム」～「チャーチ（寺院）」	**ディケイタイム** リバーブ成分の減衰時間を設定

Flanger【フランジャー】

このエフェクトは NUO5 エフェクト内の「オシレーター」に入力し、もとある音声波形をいわゆる拒形波（のこぎり波）に変換し、変換後の波形にディレイをかけたものです。飛行機が飛来するような音響効果が得られます。

TIME コントロールノブでフランジャーの押しレートスピードを調節し、PARAMETER ではショートディレイの値を調節します。4 ビートパターン(16 ビート)以上では、非常にスムーズな“SPACE”アンビエンスがミックス効果として楽しめます。

	TIME	PARAMETER
フランジャー	**フランジスピード** L.F.O オシレータ周期を設定 0.5～8 ビートパターン	**ショートディレイの微調整** 最小値＝0.1Ms(0%)～6mS(100%)

＊1 ビートパターン＝4 ビート

Phaser【フェイザー】

フェイザーは L.F.O オシレータ段に信号を入力し、その周期にしたがって位相が反転していくエフェクトです。言い換えれば原音のステレオ信号は設定した周期に従ってだんだんと逆相信号となり、その後また通常の正相信号に戻り、これが繰り返される音響効果です。TIME コントロールノブでは L.F.O.オシレータにかかる周期を調節し、PARAMETER はフィードバック値を調節します。フィードバックを行うとスピードがどんどん上昇していきます。

	TIME	PARAMETER
フェイザー	**フランジスピード** L.F.O オシレータ周期を設定 0.5～8 ビートパターン	**フェイザーフィードバック値(%)** カットオフ周波数：100Hz(0%)～12KHz(100%)

＊1 ビートパターン＝4 ビート

Vocoder【ボコーダー】

ボコーダーといえば真っ先に出てくるのがテクノ必須の「ロボットサウンド」。エフェクト段に入力した原音をシンセサイザーである部分の「音のぶれ」を増幅することで「ロボット」のような音が得られる仕組みになっています。

NUO5 のボコーダーエフェクトは 15 種類ののボコーダーキャリアと 25 種類のシンセサイザーを組み合わせ、多彩なボコーダー効果を得ることができます。

	TIME	PARAMETER
ボコーダー	**キャリアシンセサイズノート** 1～25	**キャリアテンバー** 0～15

Pitch Shifter【ピッチシフター】

これも非常に面白いエフェクトで、エフェクト段に入力した音声信号の「音の高さ」を変換し出力するもので、マイクロフォンなどと組み合わせて使用すれば「人違い」系のエフェクトになりますし、音楽ソースを入れると「キーコントローラ」としても使えます。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

このエフェクトでは TIME は使わず PARAMETER ノブだけを使用し、ピッチトーン（音源の高さ）として±12 半音、トータル 100 ステップを調節することができます）

	TIME	PARAMETER
ピッチシフター	---	**ピッチトーン** +/-12 半音ずつ、合計 100 ステップ

Echo Reverb【エコーリバーブ】

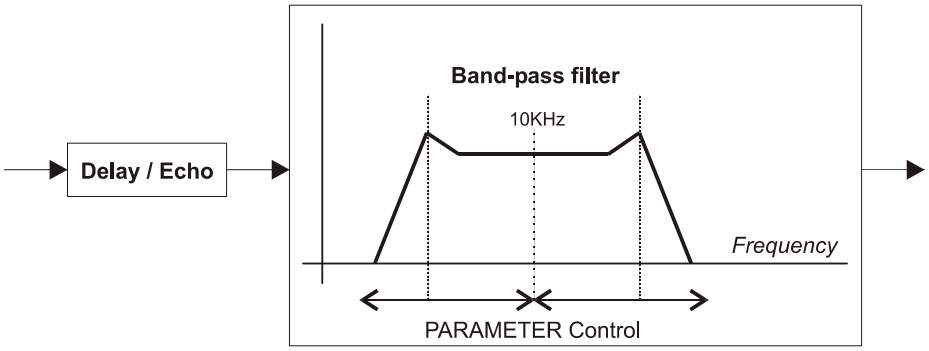
このエフェクトは BPM 同期のエコーにフィードバック＆「ミディアムルームリバーブ」を付加したエフェクトです。

	TIME	PARAMETER
エコーリバーブ	**ディレイタイム** 1/4～1 ビート	**ディレイフィードバック（エコー）**

Filtered Echo【フィルタードエコー】

このエフェクトは BPM 同期型エコーにバンドパスフィルターを組み合わせたものです。
まず、エフェクト段に入力された音声信号はディレイを通じて遅延され、次にバンドパスフィルターで設定した帯域周波数外の音声をカットオフする仕組みになっています。このバンドパスフィルターの中心周波数は PARAMETER コントロールで変化させることができ、TIME コントロールノブではディレイタイムをビート値でコントロールします。

テクノのリミックスにおいてはこのフィルタードエコーはある特定の高域をアクセラレートする「使いやすい」エフェクトでしょう。お勧めセッティングは TIME を”1-2”(1/2 ビートディレイ)、DRY-WET フェーダーを中央にして PARAMETER を”100”から”70”程度にセッティングします。



	TIME	PARAMETER
フィルタードエコー	**ディレイタイム** 1/4～4 ビート	**バンドパスフィルターカットオフ周波数設定(%)** ハイパス周波数：100Hz(0%)～1KHz(100%) ローパス周波数：1KHz(100%)～20KHz(0%)

Flanger Echo 【フランジャーエコー】

このエフェクトは BPM 同期型エコーを固定フィードバックし、フランジャーを付加したものです。
入力信号はディレイラインに入り、この信号はフィードバックされエコーを構成しますが入力段からパラレル（平行）にフランジャー回路に送られ、最終的にフランジされたエコー信号として出力されます。

	TIME	PARAMETER
フランジャーエコー	**ディレイタイム** 1/4～4 ビート	**ショートディレイ微調整%)** 最小ディレイ＝0.1ms(0%)～6ms(100%)

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

もっと詳しいエフェクト情報、また活用法のために ECLER では”TIPS AND TRICKS”専用ページを用意しています。
www.eclerdjdivision.com をご覧ください。（英語のみでのご案内となります）

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

NUO5 は世界初【エフェクトプログラマブル】DJ ミキサーです。これまでのエフェクト内蔵 DJ ミキサーは固定されたエフェクトを操作するだけにとどまりましたが、NUO5 はエフェクターに含まれるパラメーターもすべて操作可能であり、独立した外部エフェクトが DJ ミキサーに付属しているというイメージです。このエフェクターをつかって自由自在のサウンドメイキングを楽しみましょう。

エフェクトのパラメーターを直接操作するには、PC に付属の **edi:lab** ソフトウェアがあらかじめインストールされていなくてはなりません。また、PC の動作環境は以下のとおりです。

動作 OS : Windows ME, 2000, XP のいずれか(日本国内でのサポート環境により Windows 98,98SE は対象外です)
推奨マシンパワーおよびメモリ : プロセッサ Pentium Ⅲ 450MHz 以上の CPU を搭載しているマシン
メモリ 128MB 必須、256MB 推奨

7.1 ソフトウェアとドライバーのインストール

NUO5 本体には、edi:lab インストール CD のほか、USB ケーブルも同梱されているのでご確認ください。
また、edi:lab ソフトウェアをインストールする前に以下のことを事前にしておかなくてはなりません。

- ◇ NUO5 の電源を ON にします。
- ◇ NUO5 本体にある”PARAMETER Control”ノブを約 5 秒間押し続けます。その後、NUO5 側の LED ディスプレイには”PC”と表示され、これで PC とのオンラインモードになりました。
- ◇ NUO5 本体と PC を付属の USB ケーブルを使って相互に接続します。
- ◇ コンピューターの電源を入れます。

ハードウェアドライバのインストール

NUO5 と PC 本体を最初に接続したとき、PC は USB のドライバがインストールされているかどうかを自動的にチェックし、最後にドライバのインストールを促します。
USB ドライバは同梱の CD-ROM に付属しており、このドライバをインストールします。

edi:lab ソフトウェアのインストール

USB 経由で PC と NUO5 がオンラインの状態になったら、付属の CD-ROM を使用して edi:lab ソフトウェアのインストールを開始します。エクスプローラなどを使って CD-ROM のファイルを開き、”setup.exe”をクリックします。

7.2 PC モードでの操作

7.1 に記述したすべてのセットアップを終了したら、これで edi:lab ソフトウェアを使ったエフェクトプログラミングを行うことができます。さあ、自分のオリジナルセットアップを体験してみましょう。

【注意】
edi:lab ソフトウェアを使って NUO5 と PC をオンライン状態に保つためには、NUO5 側が常に【PC モード】の状態になっていなければなりません。(前述のとおり、NUO5 本体の”PARAMETER Control”ノブを約 5 秒間押し続け、NUO5 の LED ディスプレイに”PC”と表示させれば OK です。)
USB ケーブルで相互が接続されていること、NUO5 が PC モードにあることをもう一度確認し、デスクトップ上にある edi:lab エイリアスアイコンをダブルクリックしてソフトウェアを開きます。

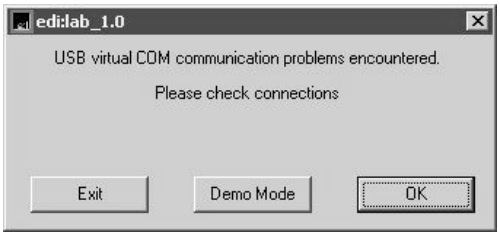
【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

NUO5 のエフェクトデータは edi:lab ソフトウェアを使用して「リアルタイムに」編集することが可能です。edi:lab ソフトウェアは NUO5 のエフェクトプロセッサーを直接リモートコントロールすることで、エフェクトデータを作成する過程を NUO5 経由で直接リスニングしながら行えるという利点を持ちます。「PC モード」では、EFFECT/TIME/PARAMETER といった NUO5 本体上の機能を使用することはできません。ただし、FXCUE ボタン、エフェクト入力および DRY-WET フェーダーは PC モードにあっても通常通り使用することができます（これは、エフェクトデータ編集時なるべくリプレイ状況に近い環境にあることが必要であるためです）。

Edi:lab ソフトウェアを立ち上げると、NUO5 が PC モードに移行する直前のエフェクトコントロールウィンドウが表示されます。（初期設定では「L.F.O フィルター」です）

Edi:lab ソフトウェアを終了すると、NUO5 は自動的にPCモードからプレイモード（通常の PC を接続していない状態のモード）に戻ります。

7.2.1 ソフトウェアスタートアップとコミュニケーションチェック



Edi:lab ソフトウェアを立ち上げると、最初に NUO5 が PC モードにあるかどうかを確認することのポップアップウィンドウが出現します。PC モードにするには、TAP ボタン（PARAMETER ノブ）を約 5 秒間押し続け、FX セクションにある LED 表示が”PC”と表示されることを確認します。なお、edi:lab ソフトウェアに PC 経由で接続できる NUO5 本体は 1 台のみです。

PC モードでは、エフェクトのセレクトや調整(TIME/PARAMETER ノブ)は使用できなくなり、edi:lab ソフトウェアを使用している間は常に PC のウィンドウ上でコントロールすることになります。

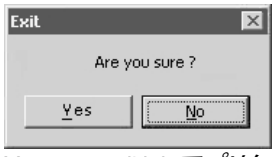
もし、NUO5 を接続したり PC モードにせず edi:lab を単体で使用したい場合は、デモモード(Demo Mode)をセレクトします。NUO5 の PC モードを終了させたい場合は、PC から edi:lab ソフトウェアを終了すると自動的にプレイモードに戻ります。もしも PC のハードウェアに問題が生じた場合には、PARAMETER ノブをまたも 5 秒間押し続けるとプレイモードに主導で戻ることができます。ただし、通常の使用においては手動でのモード切替はソフトウェアファイルの破損につながる恐れがありますのでおやめください。

【注意】 edi:lab を使用している間は、USB コネクターを絶対に抜かないでください。
edi:lab ソフトウェアには NUO5 を 1 台しか接続することができません。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

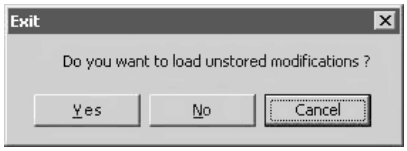
7.2.2 メニューのスクロール

Edition:	Exit	edi:lab アプリケーションをを終了します。



Yes *edi:lab アプリケーションを終了します。*

No *"Exit"コマンドを中止し、edi:lab アプリケーションに戻ります。*



Yes *NUO5 のエフェクトデータを書き換え、アップデートします。*

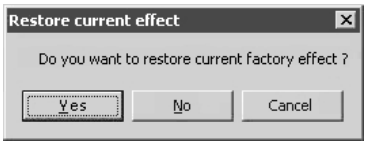
No エフェクトデータを NUO5 本体に書き込みを行わず、ソフトウェアを終了します。

Cancel EXIT コマンドを中止し、ソフトウェアに戻って作業を続行します。

PC Library:	Open	*ライブラリのエフェクトセットアップを呼び出します。*
	Save	現在のエフェクトデータをライブラリとして保存します。

ユーザーによってカスタマイズされたエフェクトはすべてライブラリとして PC のあらゆる場所に保存でき、このライブラリはメールや CD-ROM などを介して他の PC にセットアップされた edi:lab ソフトウェアで開くことができます。

Restore	All effects	すべてのエフェクトデータを工場出荷時の初期設定に戻します。
	Current effect	現在編集を行っているエフェクトデータのみを初期設定に戻します。



【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

7.2.3 ステータスバー

ソフトウェアウインドウの一番下にあるセクションは、現在のソフトウェアの状態を示しています。

Stored / Unstored【(ストア・アンストア)ステータス】

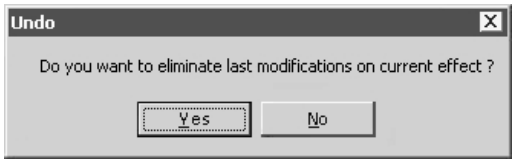
このセルは現在のエフェクトパラメーターが NUO5 本体に記憶されているかどうかを示します。“Not Stored” と表示されている場合は、現在のエフェクトデータは NUO5 本体に保存されておらず、ソフトウェアを終了すると自動的に編集データは消失します。一方 “Stored”と表示されていれば、edi:lab で作られたエフェクトデータは NUO5 本体に記憶が完了していることを意味します。

BPM Status【BPM ステータス】

このセルでは、システムから情報として得られた音源のテンポ(BPM)を表示します。初期値は 120BPM です。

Undo button【アンドゥ(取り消し)ボタン】

このボタンを押すと最後に NUO5 に記憶させたエフェクトデータを呼び出します。

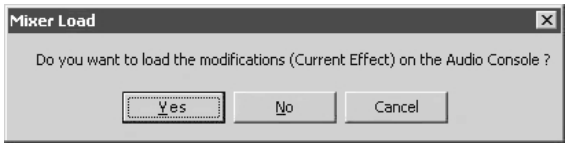


Yes　　現在のソフトウェア上のエフェクトデータを破棄し、NUO5 に最後に記憶させた各種エフェクト情報をリロードします。

No　　アンドゥコマンドを中止します。

Mixer Load button【ミキサーロード(NUO5 に記憶)ボタン】

現在のエフェクトセットアップを NUO5 本体に記憶します。



Yes　　現在のエフェクト情報のすべて(ただし、TIME と PARAMETER に関する情報を除く)を NUO5 本体にアップロードします。この段階で、それまで NUO5 内のエフェクト情報は破棄さ、新しいエフェクト情報に置き換えられます。本体のエフェクト情報を初期化するには、ソフトウェアのメニューバーから”Restore”メニュー選択します。

No/Cancel　　アップロードを中止します。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

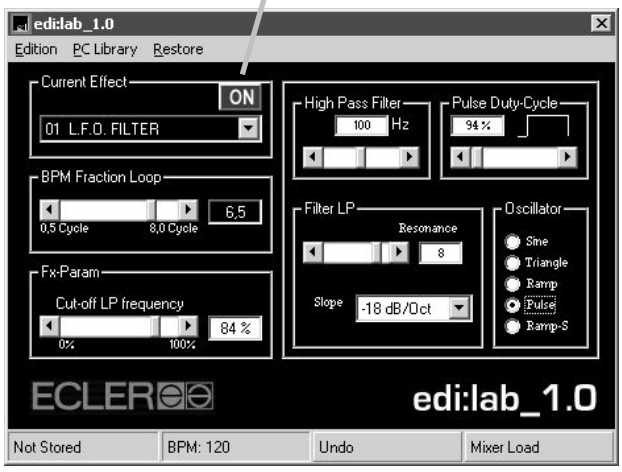
画面のオーバービュー

ON/OFF ボタン
NUO5 本体の EFFECT プッシュボタンをリモートコントロールします。（つまり、エフェクトの ON/OFF コントロールします。

EFFECT エンコーダー
（エフェクト選択）

TIME エンコーダー

PARAMETER エンコーダー

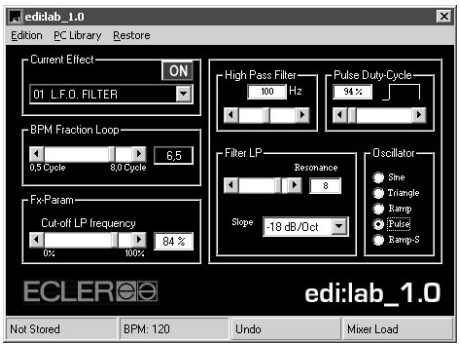


エフェクト内部パラメータ

このセクションを調整することにより、エフェクトの構造やディテールを変更することができます。

エフェクトパラメータ:

L.F.O. FILTER【L.F.O フィルター】(01)



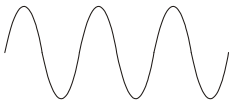
High Pass Filter【ハイパスフィルター】
PA システムに対して、特に低域周波数によるスピーカーへの悪影響を避けるため、ハイパスフィルターを微調整します。

Oscillator【オシレーター】
低域のオシレーション（L.F.O）を下記のようにさまざまな波形として切り出します。

Pulse Duty Cycle【パルスデューティサイクル】
「パルス」オシレーターの周期構成を調整します。

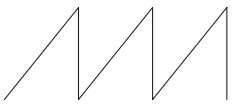
Filter LP【フィルターLP】
ここでは、波形を選択し、またカットオフゲイン（どれくらいカットするか）を調節します。

Sinewave oscillator

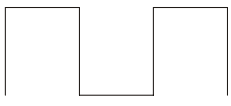


Triangle oscillator

Ramp oscillator

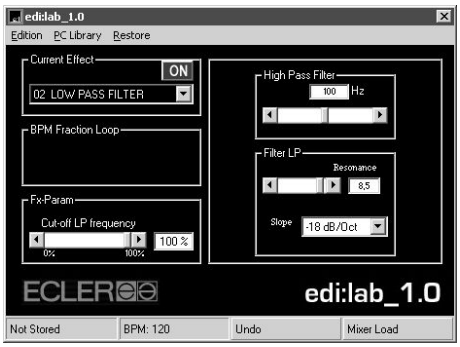


Pulse oscillator



【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

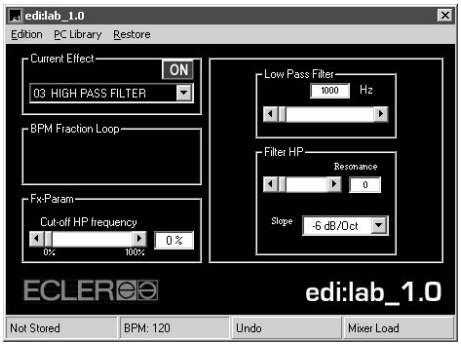
LOW PASS FILTER【ローパスフィルター】(02)



High Pass Filter【ハイパスフィルター】
PA システムに対して、特に低域周波数によるスピーカーへの悪影響を避けるため、ハイパスフィルターを微調整します。

Filter LP【フィルターLP】
ローパスフィルターのスロープおよびカットオフゲインを微調整します。値が大きくなるほど、急峻なフィルターカーブを作ります。

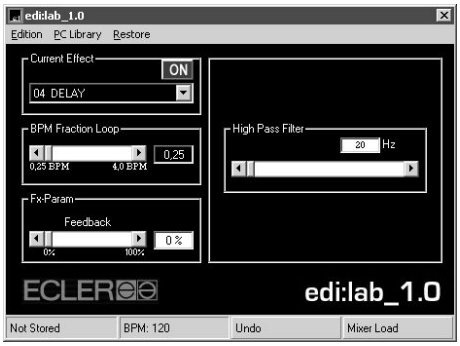
HIGH PASS FILTER「ハイパスフィルター」(03)



Low Pass Filter【ローパスフィルター】
入力段のローパスフィルターです。これでパイパスの周波数の動きをあらかじめ定義することができます。

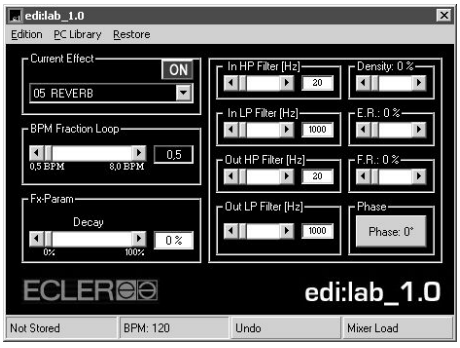
Filter HP【フィルターHP】
ハイパスフィルターのスロープおよびカットオフゲインを微調整します。値が大きくなるほど、急峻なフィルターカーブを作ります。

DELAY【ディレイ】(04)



High Pass Filter【ハイパスフィルター】
PA システムに対して、特に低域周波数によるスピーカーへの悪影響を避けるため、ハイパスフィルターを微調整します。

REVERB【リバーブ】(05)



In HP Filter【FX 入力信号ハイパスフィルター】
ここでハイパスフィルターを設定することにより、領域外の低域成分をリバーブ生成から除外することができます。この低周波数ダンピング（フィルターがかけられた状態）によって、たとえば木材など低音を吸収する素材が置かれている、などの環境をシミュレートすることができます。

In LP Filter【FX 入力信号ローパスフィルター】
ここでローパスフィルターを設定することにより、領域外の高域成分をリバーブ生成から除外することができます。たとえば部屋の中のスポンジのように反射する高音を止めるというようなシミュレーションが可能です。

FX 出力信号ロハイパスフィルター（Out HP Filter）

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

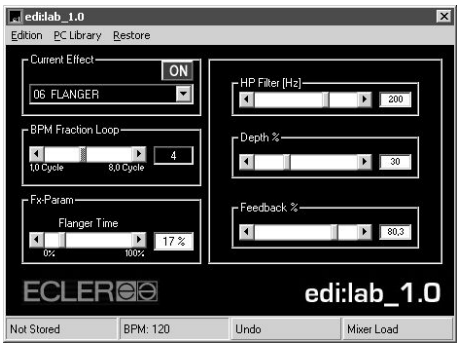
FX 出力信号ロハイパスフィルター（Out LP Filter）

Density【リバーブ係数】
リバーブのいわゆる「濃さ」を調節します。（反射物、人などの構成条件のシミュレート）
E.R.%【初期反射値】
音源が最初の反射物に当たって跳ね返る時間を調節します。この値が大きいほど「大きい部屋で障害物がない」という条件想定になります。

F.R.%
この値はいわゆる「プリディレイ」と呼ばれるもので、リバーブ段に信号が送られるまでのディレイ値を決定します。いわゆる「ルームサイズ」を定義するもので、この値が小さくなるとより小さな空間（部屋）を想定します。

Phase【位相】
生成されたリバーブ信号の位相を逆転します。空間にブリリアントな広がりを加えます。

FLANGER【フランジャー】(06)

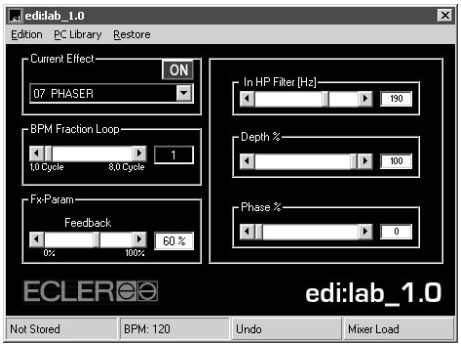


High Pass Filter【ハイパスフィルター】
PA システムに対して、特に低域周波数によるスピーカーへの悪影響を避けるため、ハイパスフィルターを微調整します。

フランジャー深さ（Depth）
フランジャーディレイの最大値を調節します。

フィードバック（Feedback %）
フランジャーディレイのフィードバックをパーセンテージで調節します。

PHASER【フェイザー】(07)



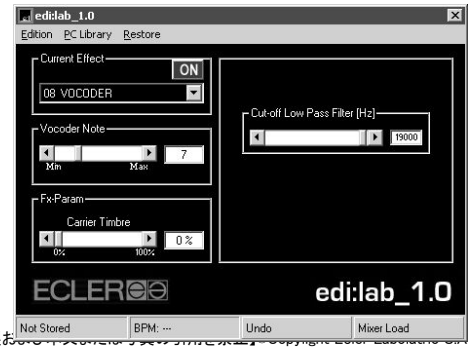
FX 入力段ハイパスフィルター（In High Pass Filter）
PA システムに対して、特に低域周波数によるスピーカーへの悪影響を避けるため、ハイパスフィルターを微調整します。

深さ調整（Depth %）
オシレーションの動きに対するフェイズの効き具合を調節します。

フェイズシフト値（Phase %）
フェイズシフトの具体的な値をパーセンテージで調節します。（100%=180° 完全位相反転）

VOCODER (08)【ボコーダー】

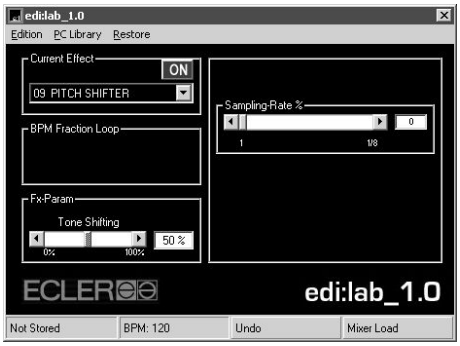
カットオフローパスフィルター（Cut-off Low Pass Filter）
Adjusts the carrier input Low Pass filter cut-off frequency.



PITCH SHIFTER (09)【ピッチシフター】

【許可なく複製お
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

サンプリングレート（Sampling Rate %）:
サンプリングレートが高ければ高いほど原音に近いサウンドが得られ、低ければ低いほどいわゆる「ローファイ」な音に変換されます。

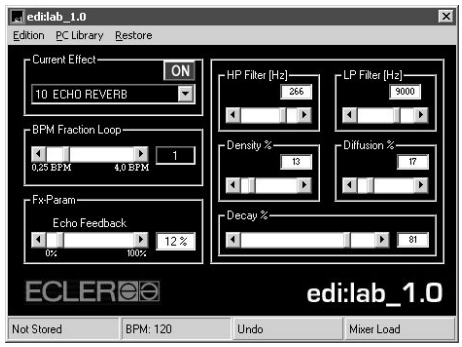


ECHO REVERB (10)【エコーリバーブ】

ハイパスフィルター（HP Filter）
低域周波数をカットする（ハイ＝高周波を、パス＝通す）フィルターのことであり、ここではカットする低域周波数を決定します。

ローパスフィルター（LP Filter）
ローパスフィルターの（高域周波数カット）周波数をコントロールします。

ディフュージョン（Diffusion）
ここでは、ルームタイプのシミュレーションを行います。ディフュージョンはリバーブエフェクトにおける「反射」を定義するもので、この値が大きいほど「部屋の壁がフラット」（音源が反射しやすくなる）になります。



デンシティ（Density）
リバーブの「濃さ＝密度」を調節します。通常、自然なリバーブは部屋のタイプや吸音材の状況、観客数などによってすべて違いますが、それらの要素によって構成する「密度」をシミュレートします。

ディケイ（Decay）
ディケイとは「リバーブタイム」のことを指します。リバーブの持続時間をここで調節します。

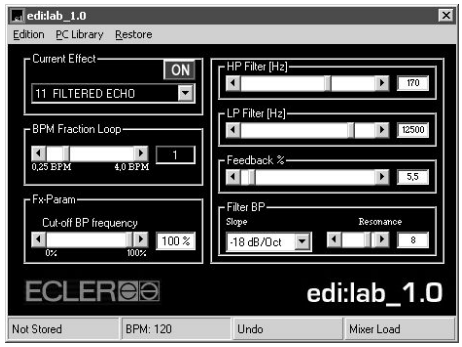
FILTERED ECHO (11)【フィルタードエコー】

ハイパスフィルター（HP Filter）
低域周波数をカットする（ハイ＝高周波を、パス＝通す）フィルターのことであり、ここではカットする低域周波数を決定します。

ローパスフィルター（LP Filter）
ローパスフィルターの（高域周波数カット）周波数をコントロールします。

フィードバック（Feedback）
生成されたエコー成分をもう一度エコー段にフィードバックさせる値を調節します。この値が大きいほど深いエコーが得られます。

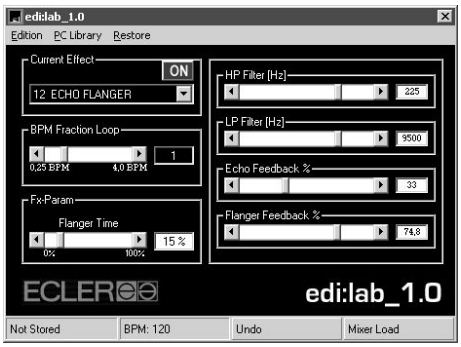
バンドパスフィルター（Filter BP）
フィルターのスロープの度合いおよびスロープの形状を選択します。



ECHO FLANGER (12)【フランジャーエコー】

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

ハイパスフィルター（HP Filter）
低域周波数をカットする（ハイ＝高周波を、パス＝通す）フィルターのことであり、ここではカットする低域周波数を決定します。



ローパスフィルター（LP Filter）
ローパスフィルター（高域周波数カット）の周波数をコントロールします。

エコーフィードバック（Echo Feedback）
エコーフィードバックの度合いを調節します。この値が大きいほど、ディレイリフレクションの効果が高くなります。

フランジャーフィードバック（Flanger feedback）
フランジャーとして生成されたエフェクト信号のフィードバックを調節します。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

8. MIDI 機能の使い方

NUO5 には MIDI 出力端子(DIN5)があり、MIDI プロトコルをサポートしている外部機器をコントロールすることが可能です。

MIDI (Musical Instrument Digital Interface の略)は、シンセサイザー、キーボードをはじめあらゆる音楽機器の間で標準的な PC プロトコルとしてよく知られています。それぞれの MIDI デバイスはマスター／スレーブマシンとして動作します。NUO5 はマスターMIDI ユニットとして動作し、それぞれに接続された外部機器（シンセサイザー、シーケンサー、ドラムマシン etc...）をリモートコントロールします。

NUO5 における MIDI 機能は、特定の MIDI チャンネルを占有しない“System Messages”と呼ばれるものです。

NUO5 は MIDIOUT 端子を介して MIDI クロックと呼ばれる同期信号を出し続け、外部機器とリアルタイムの同期を取っています。NUO5 の MIDI クロック信号は NUO5 内部の BPM プロセッサを使って計算した BPM を MIDI クロックに変換される形で送られています。
外部の MIDI 機器をコントロールするには、それらの機器をまず「スレーブユニット」として認識させなければなりません。（エクスターナルクロックセットアップ）

NUO5 は同時に、MIDI START もしくは MIDI STOP コマンド外部 MIDI 機器に対して送出することが可能です。このコマンドを使用するには、NUO5 の EFFECT ノブを押します。一度押すと START となり、もう一度押すと STOP となります。

※MIDI 機能は NUO5 が “PC モード“にある場合は使用することができませんのでご注意ください。

9. より楽しくお使いいただくために

9.1 グラウンドループ

すべての接続機器のグランド（接地）がループ状態にないかどうかを確認してください。また、各種機材を接続する際は必ずシールドの施されたケーブルを使用してください。これを怠ると、ハムノイズなどを誘発する原因となります。

9.2. 周辺のオーディオ機器の接続

オーディオ機器を接続するに当たって一般的に言える事項ですが、以下のことに留意してください。
※ケーブルはなるべく太いものをなるべく短く使用すること
※常にハイクオリティなケーブルを使用すること
NUO5 はレコーディングなどのリファレンスとしても使用できるグレードの DJ プリプロダクションミキサーであり、内部のパーツはすべて最高質のものを使用しています。せっかくいいミキサーを使ってもケーブルやコネクターが悪いのであれば意味がありません。

9.3. バックグラウンドノイズ

よくある質問や製品に対する意見として「バックグランドで発生しているノイズ」が取り上げられます。ECLER の DJ ミキサーのすべての製品は、パーツから回路構成まですべてが吟味されつくし、放送用グレードとしても遜色のない、すばらしい電気性能を持つ製品です。また、100V 以下で使用してもまったく電源にノイズが左右されることはありません。それでは、どうしたらノイズを減らすことができるのでしょうか？
たとえば、チャンネルフェーダーを 2 に設定してマスターフェーダーを 10 に設定するのと、チャンネルフェーダーを 10 に設定してマスターフェーダーを 2 に設定するのとでは前者のほうが断然に発生するノイズレベルは大きくなります。また、他のチャンネルフェーダーを上げたままの状態にしているとその数が多いほどノイズの発生に影響します。また、同じように GAIN ノブを上げすぎてチャンネルフェーダーのレベルを小さくしたときも同じ状況が発生します。
これらのことに気をつけることができればよりよいコンディションでミキサーを使用することができます。

9.4. クリーニング

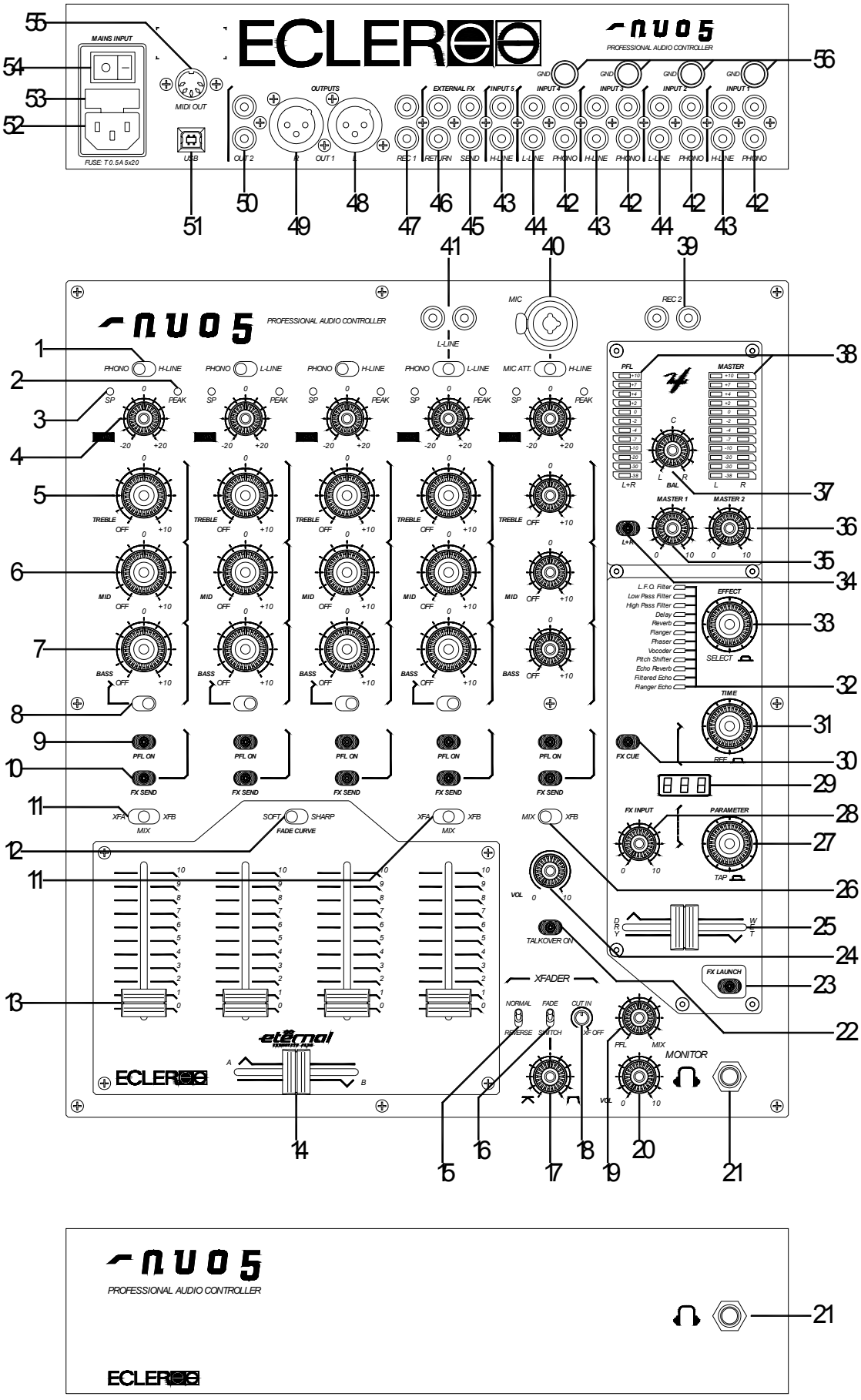
【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

お手入れをする際には、中性洗剤を水に薄めた液体を使い、柔らかい布を使って軽くふき取るようにしてください。用材の入った有機性液体は本体の塗装をはがしたり、液体が内部に混入して回路に重大なダメージを与える可能性がありますので絶対におやめください。また、いかなる場合においてもフロントパネルから液体を混入させないようにしてください。

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

1. インプットセレクター
2. ピークインジケーター(+10dB), PEAK
3. シグナルプレゼンス（信号入力）インジケーター (-40dB), SP
4. 入力感度調節, GAIN
5. 高域周波数コントロール, TREBLE
6. 中域周波数コントロール, MID
7. 低域周波数コントロール, BASS
8. 低域周波数アイソレーションスイッチ, BASS OFF
9. プリフェーダーリスニングコントロール(CUE), PFL
10.エフェクトバスへの送りスイッチ, FX SEND
11. クロスフェーダーアサインスイッチ, XFA/MIX/XFB
12. フェーダーカーブセレクター, FADE CURVE
13. VCA フェーダー
14. ETERNAL クロスフェーダー
15. クロスフェーダーリバース機能
16. クロスフェーダーカーブモード切替スイッチ(Switch/Fade)
17. クロスフェーダーシェイプアジャスター
18. クロスフェーダー「カットインタイム」アジャストメントボリューム, CUT IN
19. PFL/MIX モニタークロスフェード
20. ヘッドフォンボリュームコントロール, VOL
21. ステレオヘッドフォンジャックコネクター
22. トークオーバーボタンスイッチ, TALKOVER ON
23. エフェクト→PGM 出力スイッチ, FX LAUNCH
24. 入力チャンネル 5 ボリュームコントロール, VOL
25. エフェクトミックスクロスフェーダー, WET-DRY
26. クロスフェーダーへの送りスイッチ, MIX/XFB
27. パラメーター＆マニュアルテンポコントロールロータリーエンコーダー, PARAMETER
28. エフェクト入力信号アッテネーター, FX INPUT
29. TIME/PARAMETER 表示用 7 セグメント LED ディスプレイ
30. エフェクトモニタリングセレクター, FX CUE
31. エフェクトビートシンクロナイゼーション/TIME 設定用プッシュロータリーエンコーダー, TIME
32. 内蔵エフェクターステータス LED ディスプレイ
33. エフェクト選択用プッシュロータリーエンコーダー, EFFECT
34. PGM モノラル出力設定ボタン, L+R
35. PGM 出力コントロール 1, MASTER 1
36. PGM 出力コントロール 2, MASTER 2
37. PGM 出力1バランスコントロール, BAL
38. PFL（キュー）＆マスターVU メーター, PFL / MASTER
39. REC 出力 RCA コネクター, REC2
40. マイクロフォン入力コネクター（ノイトリックコンボ）, MIC
41. ローライン RCA 入力端子, L-LINE
42. ターンテーブル用 PCA 入力端子, PHONO
43. ハイライン RCA 入力端子, H-LINE
44. ローライン RCA 入力端子, L-LINE
45. 外部エフェクト出力端子, SEND
46. 外部エフェクト入力端子, RETURN
47. 録音出力コネクター(RCA), REC1
48. Lチャンネルバランス出力, OUT1 L
49. RLチャンネルバランス出力, OUT1 R
50. RCA ピン型オーディオ出力端子, OUT2
51. USB ポート
52. 電源コネクター
53. ヒューズホルダー
54. 主電源スイッチ, O/I
55. MIDI 出力 Output, MIDI OUT
56. Ground pin, GND

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。



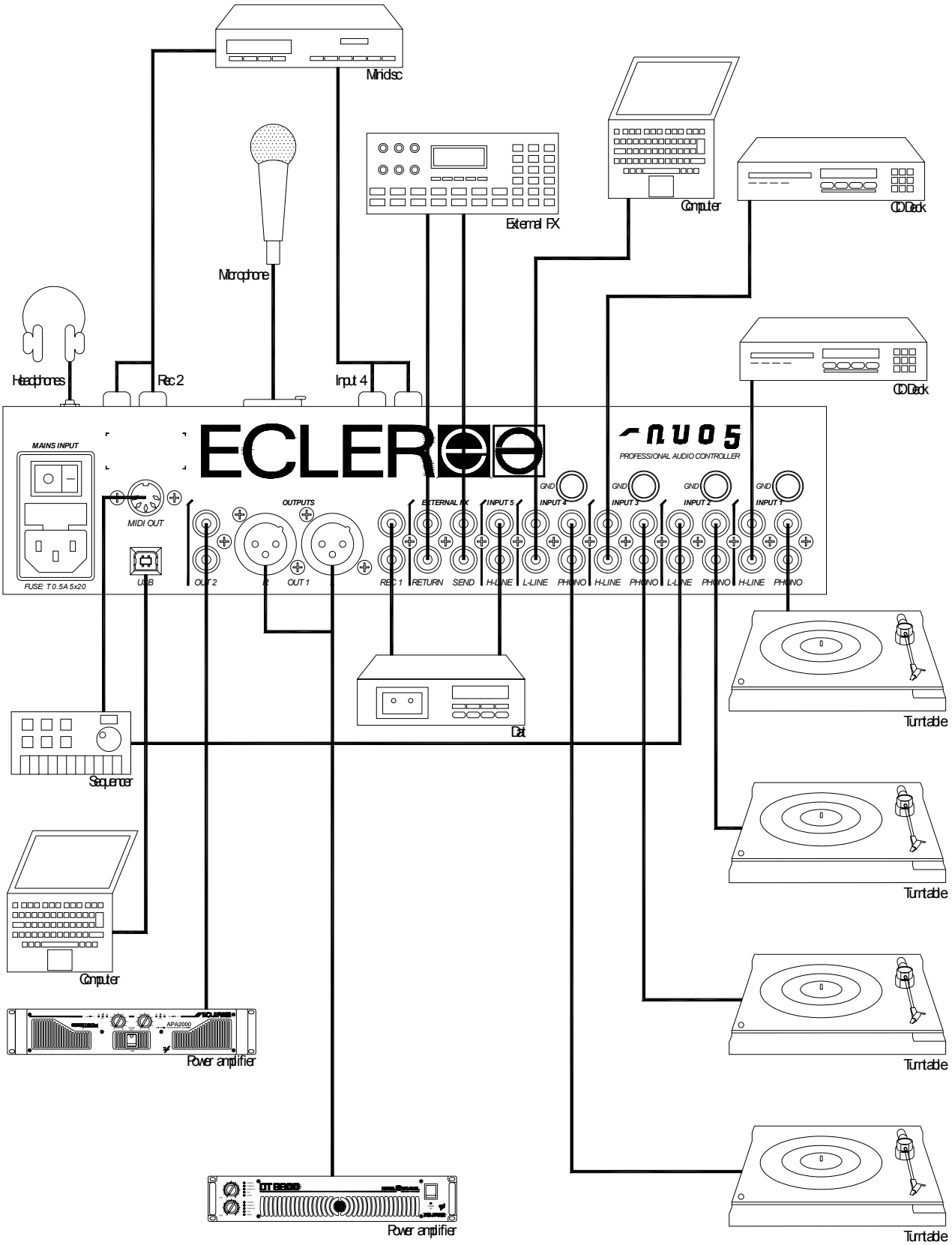
【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

入力感度およびインピーダンス	H-LINE	0dBV/50kΩ
	L-LINE	-10dBV/50kΩ
	PHONO	-40dBV/50kΩ
	MICRO (MIC ATT.)	-50 (-30)dBV/>1kΩ
	FX RETURN	0dBV/>7.5kΩ
出力レベル	OUT 1 (BAL)	0dBV/600Ω 1V*(+6dB 2V)
	OUT 2	0dBV/2.2kΩ 1V*(+6dB 2V)
	REC 1	0dBV/10kΩ
	REC 2	0dBV/10kΩ
	HEADPHONES	200mW/200Ω THD 1%
	FX SEND	0dBV/>10kΩ
周波数特性	H-LINE & L-LINE	10Hz～30kHz -1dB
	MICRO	10Hz～25kHz -1dB
	PHONO	RIAA ±0.5dB
THD+N（総合ひずみ率）	H-LINE & L-LINE	<0.07%
	MICRO	<0.09%
	PHONO	<0.15%
CMRR	MICRO	>70dB @ 1kHz
SN 比（信号対ノイズの比率）	H-LINE & L-LINE	>100dB
	MICRO	>85dB
	PHONO	>90dB
ゲインコントロール（全入力）	GAIN	± 20dB
トーンコントロール	BASS	+10-30dB
	MID	+10-25dB
	TREBLE	+10-30dB
“Kill”フィルター周波数(-6dB: 12dB/オクターブスロープ)	LOW	200Hz
トークオーバー	Time	1 秒
	Effect	-30 dB
シグナルプレゼンス（信号入力）インジケーター		-40dB
ピークインジケーター		+10dB
ファンタム電源		+18VDC/5mA max
電源入力		90-264VAC 47-63Hz
定格消費電力		48VA
寸法	Panel	370x320mm
	Depth	80mm
重量		5,5 kg

(*) 内部ジャンパーで設定変更可能な箇所

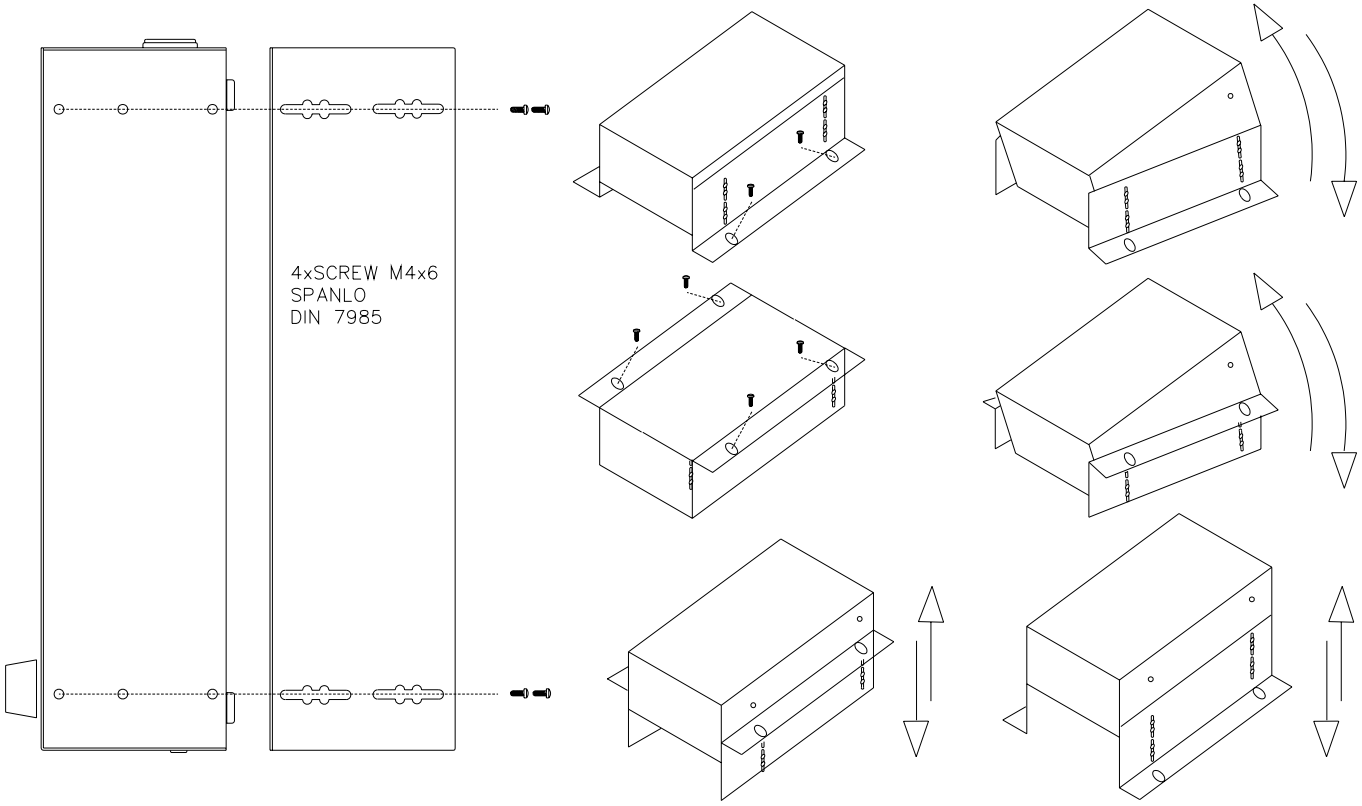
【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

13.1.1 NUO5 を主体とした外部機器接続のイメージ図



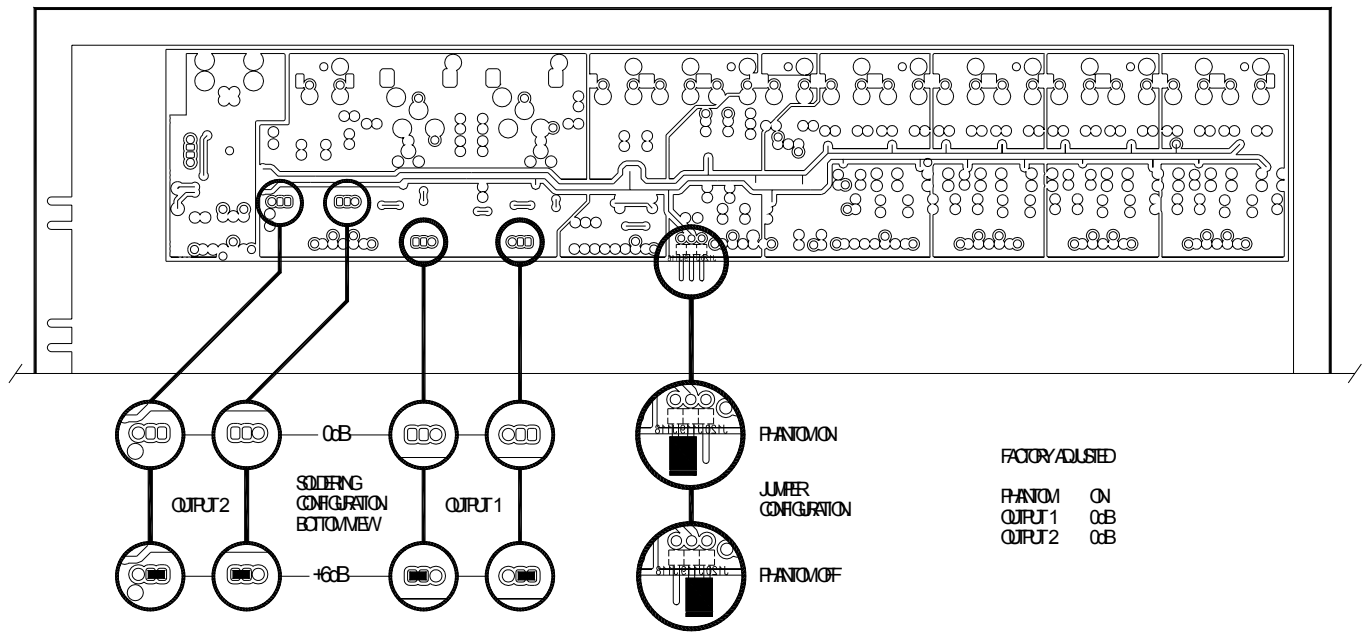
【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

13.1.2 オプションラッキングシステム詳細



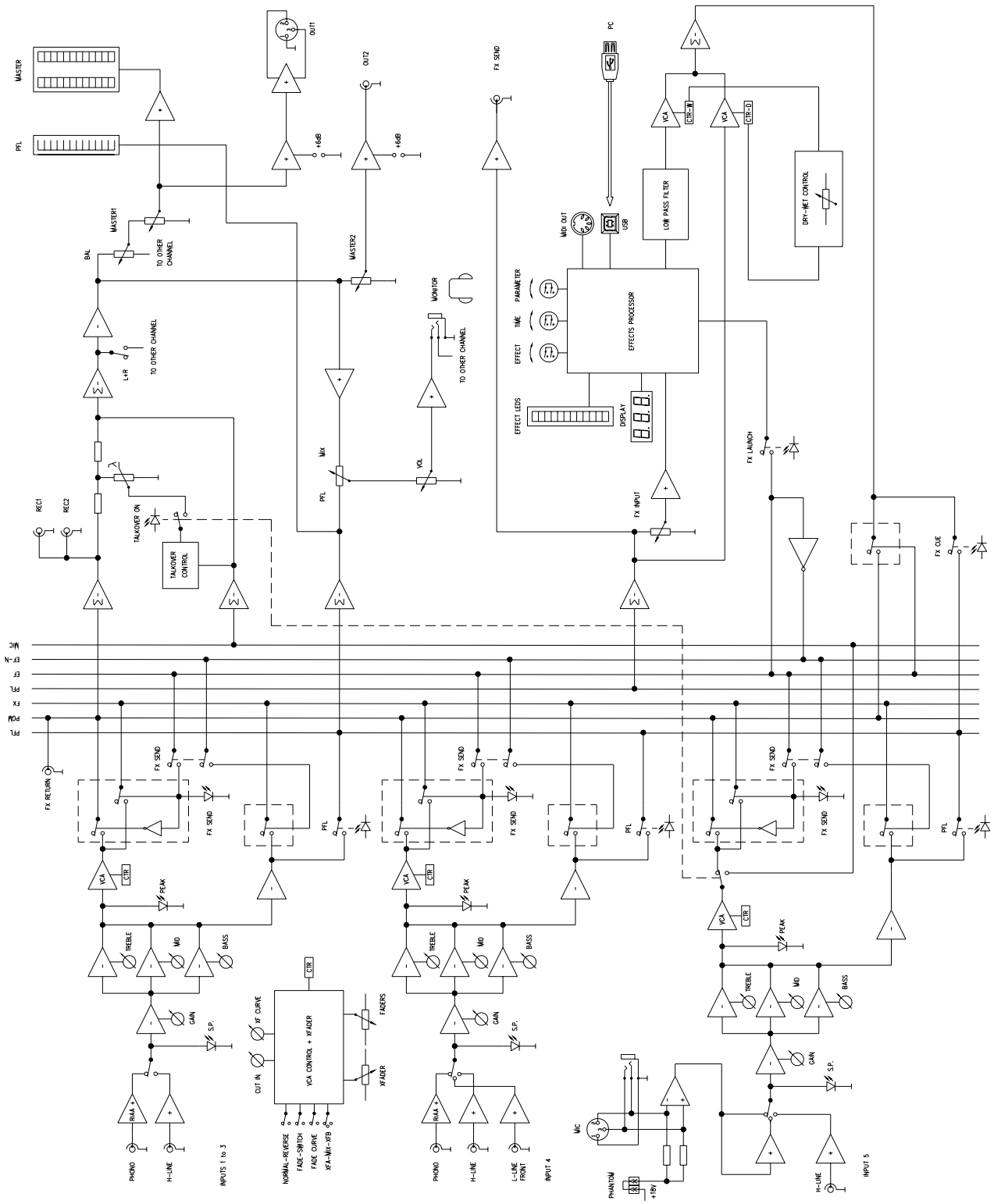
【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

13.1.3 内部ジャンパー接続の設定（上級者・技術者用）
※この方法に関してよくお分かりにならない方は、本体の内部を開けないでお買い求めの販売店にご相談ください。



【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

14. ブロックダイヤグラム



ECLER Laboratorio de electro-acústica S.A.
Motors 166-168, 08038 Barcelona, Spain
INTERNET http://www.ecler.com E-mail: info@ecler.es

50.0086.01.00

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copylight Ecler Labolatrio S.A
本書の翻訳権は株式会社サウンドファームがライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。